SONY

2-634-578-**02**(1)

S-AIT ライブラリー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。

CSM-20S

© 2005 Sony Corporation

モデル名とシリアル番号を控えておいてください

本機のモデル名とシリアル番号は、本機背面に記載されています。
モデル名とシリアル番号は、サービス・サポート窓口にご相談するときに必要ですので、下欄に控えておいてください。

モデル名_____ **シリアル番号**_____

Safety Information

Your S-AIT Library is assigned model number CSM-20S for regulatory compliance certifications. The number is indicated on the model number label on your library along with the rated voltage and current.

本機は、規定承諾証明用にモデル番号 CSM-20S が指定されています。番号は、本機に貼付されているモデル番号ラベルに定格とともに記載されています。

Warning

To prevent fire or shock hazard, do not expose the unit to rain or moisture.
To avoid electrical shock, do not open the cabinet.
Refer servicing to qualified personnel only.

Caution

The mains plug on this equipment must be used to disconnect mains power.
Please ensure that the socket outlet is installed near the equipment and shall be easily accessible.

Notice

Use the power cord set approved by the appropriate testing organization for the specific countries where this unit is to be used.

Achtung

Zur Trennung vom Netz ist der Netzstecker aus der Steckdose zu ziehen, welche sich in der Nähe des Gerätes befinden muß und leicht zugänglich sein soll.

Hinweis

Die 3-adrige Geräteanschlußleitung muß Typ H05VV-F oder H05VVH2-F sein und nach DIN VDE 0625 geprüft sein. Der Stecker und die Gerätesteckdose müssen nach DIN VDE 0620 bzw DIN VDE 0625 geprüft sein. Der Leitungsquerschnitt kann 0,5mm^2 betragen wenn die Anschlußleitung eine Länge von 2m nicht überschreitet. Anderenfalls muß der Leitungsquerschnitt mindestens 0,75mm^2 betragen.

Hinweis

Der höchste Schalldruckpegel beträgt 70 dB(A) oder weniger gemäß ISO7779.

Ratings
Voltage
AC 100 V - 240 V
Current
1.2 A - 0.6 A
Frequency
50 / 60 Hz
Max. Ambient Temperature
35 degrees centigrade

A certified power supply cord has to be used with this equipment.
The relevant national installation and/or equipment regulations shall be considered.
A certified power supply cord not lighter than ordinary polyvinyl chloride flexible cord according to IEC 60227 (designation H05VV-F 3G 0.75 mm^2 or H05VVH2-F2 3G 0.75 mm^2) shall be used. Alternative a flexible cord be of synthetic rubber according to IEC 60245 (designation H05RR-F 3G 0.75 mm^2) shall be used.

Zum Netzanschluss dieses Gerätes ist eine geprüfte Leitung zu verwenden.
Es sind die zutreffenden nationalen Errichtungs- und/oder Gerätebestimmungen zu beachten.
Es ist eine geprüfte flexible PVC-ummantelte Leitung entsprechend IEC 60227 (H05VV-F 3G 0.75 mm^2 oder H05VVH2-F 3G 0.75 mm^2) zu verwenden. Andernfalls ist eine flexible Leitung aus synthetischem Gummi entsprechend IEC 60245 (Bauartkurzzeichen H05RR-F 3G 0.75 mm^2) zu verwenden.

INFORMATION

You are cautioned that any changes or modifications not expressly approved in this manual could void your authority to operate this equipment.

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class A digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference when the equipment is operated in a commercial environment. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instruction manual, may cause harmful interference to radio communications. Operation of this equipment in a residential area is likely to cause harmful interference in which case the user will be required to correct the interference at his own expense.

This device requires shielded interface cables to comply with FCC emission limits.

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:
(1) This device may not cause harmful interference, and
(2) This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Für Kunden in Deutschland

Diese Ausrüstung erfüllt die Europäischen EMC-Bestimmungen für die Verwendung in folgender/ folgenden Umgebung(en):
- Gewerbegebiete
- Leichtindustriegebiete

(Diese Ausrüstung erfüllt die Bestimmungen der Norm EN55022, Klasse A.)

For Users in Japan

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本機は「高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品」です。

For Users in Korea

이 기기는 가정용으로 전자파 적합등록을 한 기기로서
주거지역에서는 물론 모든 지역에서 사용할 수 있습니다.

기기의 명칭（모델명） : CSM-20S
인증받은자의 상호 : SONY KOREA CORP.
제조년월일 : 별도표시
제조자／제조국가 : SONY CORP. / 일본

警告使用者:
這是甲類的資訊產品、在居住的環境中使用時、可能會造成射頻干擾、
在這種情況下、使用者會被要求採取某些適當的對策。

目次

第 1 章　はじめに

概要 **8**
S-AIT テクノロジーについて **8**
S-AIT ライブラリーの特長 **9**
使用できるカートリッジ **10**
データカートリッジ 10
クリーニングカートリッジ 10
使用できるソフトウェア **10**
使用上のご注意 **10**
安全上のご注意 10
使用上のご注意 11
各部の名称と機能 **12**
前面 12
背面 14
ラベルについて **15**

第 2 章　設置する

概要 **16**
開梱する **16**
同梱品を確認する **18**
ホストコンピューターの準備をする **18**
本機を設置する **19**
電源ケーブルを接続する **20**
SCSI ケーブルを接続する **21**

第 3 章　基本的な使いかた

概要 **24**
本機の操作について **24**
操作パネルの使いかた **25**
液晶ディスプレイと操作ボタン 25
LED 表示 25
オペレーションモードについて **26**
ON LINE モード 26
USER モード 26
電源を入れる / 切る **28**
電源を入れる 28
電源を切る 29

SCSI ID を設定する 30
エレメントアドレスの割り当てについて 31
カートリッジをセットする 32
カートリッジを準備する 32
カートリッジ挿入／排出スロットを使ってカートリッジをセットする 33
マガジンを使ってカートリッジをセットする 34

第４章　コマンドの詳細

概要 37
USER モードのコマンドメニュー一覧 37
INFORMATION メニュー 39
OPERATION メニュー 44
CONFIGURATION メニュー 61

第５章　ON LINE モードの表示について

概要 65
ライブラリーでエラーが発生した場合の表示 66
ドライブでエラーが発生した場合の表示 66
ドライブで WARNING が発生した場合の表示 67
ドライブとの ACI 通信が不可能になった場合の表示 68
ドライブで WARNING とエラーが重なった場合の表示 69
ライブラリーのエラーとドライブのエラー（WARNING）が重なった場合の表示 70

第６章　カートリッジについて

本機で使用できるカートリッジ 71
データカートリッジについて 71
各部の名称と機能 72
テープの書き込み保護 74
クリーニングカートリッジ 75
カートリッジの取り扱いについて 75
カートリッジの使用・保管・輸送環境 76

その他

パスワードを忘れたときは 77
故障かな？と思ったら 77
本機を輸送するときには 80
フロントドアリリースピンを使って、フロントドアを開けるには 81
エラーコード一覧 82

主な仕様 86
性能 86
使用環境 86
電源・その他 87
オプショナルアクセサリ（別売） 87
索引 88

商標について

・Sony、Advanced Intelligent Tape、Super Advanced Intelligent Tape は日本およびその他の国におけるソニー株式会社の登録商標または商標です。
・その他、本書に記載されている製品名は各社の登録商標または商標です。

第 1 章 はじめに

概要

CSM-20S は、S-AIT ドライブを内蔵している S-AIT ライブラリーです。最大 20 巻のカートリッジをセットして使用できます。本機は、ワークステーションやサーバーに接続して利用できます。

S-AIT テクノロジーについて

S-AIT ライブラリーは、テープストリーマーの新規格「S-AIT（Super Advanced Intelligent Tape)」テクノロジーを使用した大容量データ記憶装置です。S-AIT テクノロジーは、AIT 規格の基本技術を継承するとともに、新たに 1/2 インチ幅のシングルリールテープカートリッジを採用することで、大容量記録を実現しました。

ヘリカルスキャン方式

ヘリカルスキャン方式は、回転ヘッドと移動するテープの間でテープ長手方向に対して一定の角度を持ち、斜めにデータを記録します。読み書きのヘッド自体が回転し、それにテープが巻きつくような形で走行します。回転ヘッドを使用することによってテープ送り速度を低速にし、回転ドラムの回転数を上げることによって相対速度を上げるため、記録テープに負担をかけることなく高速転送を実現しています。

メタル蒸着テープ（Advanced Metal Evaporated Tape）

S-AIT カートリッジは、メタル蒸着テープ技術を採用しています。メタル蒸着テープには、磁性体表面にカーボンコーティング DLC（Diamond Like Carbon）が施され、テープの耐磨耗性を向上させています。

リモート MIC（R-MIC）搭載

カートリッジに内蔵されている R-MIC* 上にシステムログ（使用履歴）を保管することにより、カートリッジのローディング／排出にかかる時間や検索時間を短縮し、アクセス性を向上させます。

* MIC とは、カートリッジに内蔵されたフラッシュメモリーのことです。

高信頼性

シンプルなトランスポーターメカニズムにより、テープローディングの信頼性を大幅に向上しました。さらに、万一の場合にもリトライが可能であり、フェイルする確率が極めて小さくなります。

S-AIT ライブラリーの特長

最大 20 巻のカートリッジをセット可能

最大 20 巻の S-AIT カートリッジをセットできます。カートリッジの交換は、フロントパネルのカートリッジ挿入 / 排出スロットから行うことができます。また、本機にはバーコードリーダーが内蔵されていますので、バーコードラベルでカートリッジを管理することができます。
本機では、次のカートリッジを使用できます。

CSM-20S/S1 モデルの場合
・ SAIT-1 カートリッジ
　圧縮時：　最大 26 テラバイト (圧縮率 2.6:1)
　非圧縮時： 最大 10 テラバイト

リムーバブルマガジンでのカートリッジ一括交換が可能

フロントドアから着脱可能なマガジンを利用することで、最大 12 巻（2 マガジン）のカートリッジを一括交換することが可能です。

2 台までの S-AIT ドライブを内蔵可能

2 台までの S-AIT ドライブを内蔵して使用することができます。S-AIT ドライブは、ホットスワップ対応のユニットになっているため、ライブラリーの電源が入っている状態で増設や交換ができます。S-AIT ドライブの増設については、お買い上げ店にお問い合わせください。

リモートでライブラリーの操作が可能

ブラウザを使って、各種設定をしたり、ライブラリー情報やメンテナンス情報などを見たりすることができます。詳細は、「S-AIT ライブラリー Administration Tool」の取扱説明書を参照してください。本取扱説明書と同様に、ソニーのホームページからダウンロードできます。

LVD SCSI に準拠

CSM-20S/S1 モデルは Ultra 160 LVD SCSI に準拠しています。

ラックマウント可能

別売りのラックマウントキット ACY-RKSL を使うと、EIA STANDARD（ユニバーサルピッチ）の 19 インチラックに設置することができます。(本機のラックハイトは 5U です。）ラックマウントキットについては、お買い上げ店にお問い合わせください。ラックマウントキットの仕様については、ラックマウントキットの取扱説明書を参照してください。本取扱説明書と同様に、ソニーのホームページからダウンロードできます。

使用できるカートリッジ

本機で使用できる S-AIT カートリッジは、以下のとおりです。

データカートリッジ

本機では、次のマークが記載されている S-AIT データカートリッジをお使いください。

SAIT-1 マーク

ご注意

本機で使用できるのは、S-AIT データカートリッジだけです。

クリーニングカートリッジ

S-AIT ドライブをクリーニングするときは、S-AIT クリーニングカートリッジを使用してください。

使用できるソフトウェア

本機で使用できるアプリケーションソフトウェアや対応しているオペレーティングシステムについては、お買い上げ店にお問い合わせください。

使用上のご注意

安全上のご注意

電源に関するご注意

・100 − 240V で使用してください。
・コピー機やシュレッダーなどの消費電力の高い機器とタコ足配線しないでください。

電源ケーブルに関するご注意

・電源ケーブルを傷つけたり、重いものを載せないでください。傷んだ電源ケーブルは使用しないでください。

・電源ケーブルを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。ケーブル部分を持って抜くと、電源ケーブルが傷つく恐れがあります。
・本機を長時間使用しない場合は、電源ケーブルをコンセントから抜いておいてください。

カートリッジ挿入／排出スロットを使ってカートリッジをセットする場合のご注意

・カートリッジ挿入 / 排出スロットのシャッターは自動で開閉します。シャッターの内部に手・指を入れないでください。けがの原因となる可能性があります。

マガジンを使ってカートリッジをセットする場合のご注意

・マガジンを取り出した場合、絶対に電源を入れた状態で内部に手を入れないでください。マガジンより奥に手を入れるとはさまれ、けがの原因となる可能性があります。
・フロントドアを開けた状態で、マガジンロックリリースおよびマガジン以外の部分に触らないでください。本機の故障の原因となります。

設置に関するご注意

・本機の重量は約 27 kg（ドライブ 1 台搭載時）です。必ず 2 人以上で作業してください。腰を痛めたり、落下してけがの原因または機器の損傷につながる可能性があります。

使用上のご注意

設置について

次のような場所に本機を設置しないでください。
・湿度の高い場所
・気温の高い場所
・直射日光の当たる場所
・ほこりやちりの多い場所
・機械的な衝撃や振動の発生する場所
・急激な温度変化がある場所

設置場所の通気について

本機内部の温度上昇を防ぐため、空気が循環している環境に設置してください。また、本機の動作中はカバーを覆わないでください。本機内部の温度が上昇すると、誤動作の原因となります。

急激な温度変化がある場所には設置しないでください

本機を急激な温度変化にさらさないでください。ドライブ内部に結露が生じる場合があります。使用時に気温が急激に上昇するような場合は、いったん本機の電源を切り、1 時間以上待ってから電源を入れ直してください。急激に温度が上昇した直後に本機を使用すると、本機が故障する場合があります。

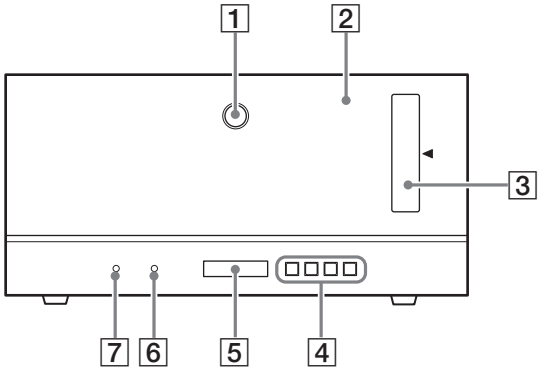
万一異常が起きたら

本機から臭いや煙が発生したときは、すぐに電源ケーブルを抜き、サービス・サポート窓口にご連絡ください。

各部の名称と機能

前面

フロントドアを閉じたところ



1 ドアロックキー
付属のキーを使用して、フロントドアを施錠します。

2 フロントドア
マガジンを使用して、カートリッジを一括セットしたり、交換するときに開けます。

3 カートリッジ挿入 / 排出スロット（メールスロット）
お使いのアプリケーションソフトウェアからコマンドを発行すると、自動的にシャッターが開きます。カートリッジ挿入後は、自動的にシャッターが閉じます。通常は閉じた状態で、外部からのほこりを防ぎます。

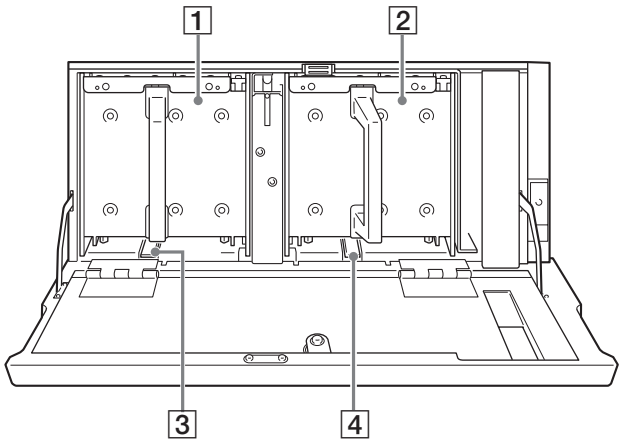
4 操作ボタン
コマンド操作を行うときに使用します。
詳しくは、第４章「コマンドの詳細」（37 ページ）を参照してください。

5 液晶ディスプレイ
16 桁２行で、コマンドやオペレーションモードを表示します。
詳しくは、第３章の「操作パネルの使いかた」（25 ページ）を参照してください。

6 エラー・警告 LED
エラーが発生しているときに点灯し、警告が発生しているときに点滅します。

7 電源表示 LED
電源が入っているときに点灯します。

フロントドアを開けたところ



1 2 マガジン

1 つのマガジンに最大 6 巻のカートリッジをセットできます。マガジンは 2 つまで装着できます。

3 4 マガジンロックリリース

マガジン交換の際に使用します。下方向に押すことで、マガジンのロックを解除します。

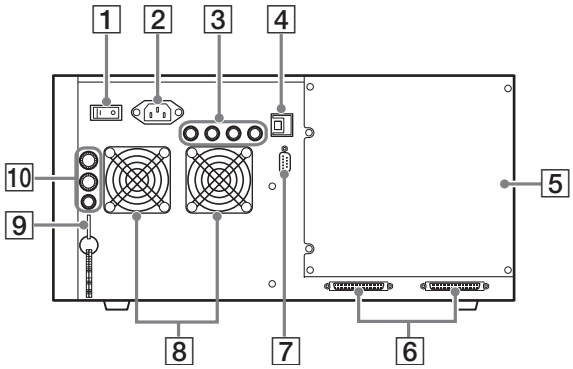
ご注意

- フロントドアを開けた状態で、マガジンロックリリースおよびマガジン以外の部分に触らないでください。本機の故障の原因となります。
- マガジンを取り出したときは、絶対に電源を入れた状態で内部に手を入れないでください。マガジンより奥に手を入れるとはさまれ、けがの原因となる可能性があります。

メモ

フロントドアが開いている状態では、カートリッジの搬送動作は行われません。マガジンを交換した後は、必ずフロントドアを閉じてください。ドアが閉じると、セットされたカートリッジのチェックを行うためのイニシャライズが自動的に開始します。

背面



1 電源スイッチ
このスイッチを押すと電源が入ります。電源を切るときも、このスイッチを押します。

2 電源コネクター
電源ケーブルを接続します。

3 内蔵ドライブ用輸送ロック（M3）
設置時に取り外した内蔵ドライブ用輸送ロックは、ここに取り付けておきます。

4 LAN コネクター
10Base-T/100Base-TX のネットワークケーブルを接続します。

5 メンテナンス用カバー
ドライブの増設、交換の際に外します。通常は、このカバーを絶対に開けないでください。ドライブの増設、交換については、お買い上げ店にお問い合わせください。

6 SCSI コネクター 1（右側）、SCSI コネクター 2（左側）
SCSI ケーブルを接続します。接続については、第 2 章の「SCSI ケーブルを接続する」（21 ページ）を参照してください。

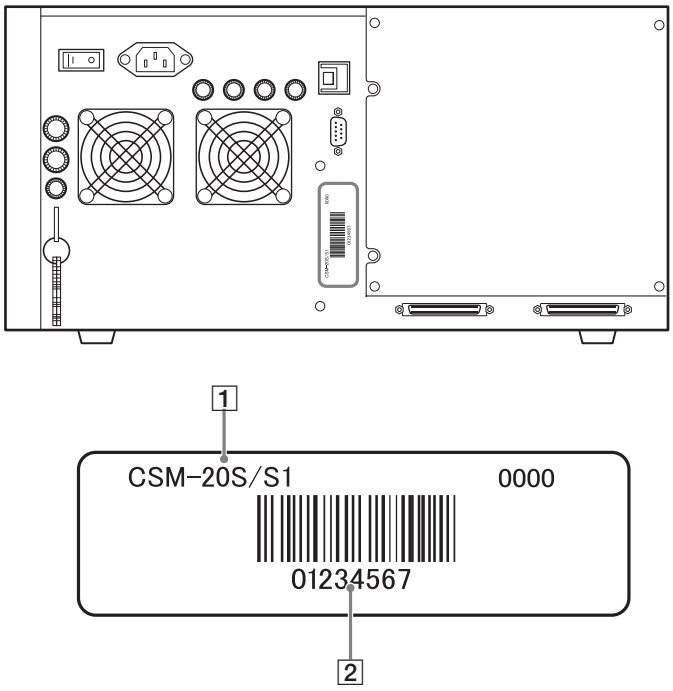
7 RS-232C コネクター
メンテナンスのときにのみ使用します。通常は使用しないでください。

8 クーリングファン、通風孔
通気孔をふさがないように注意してください。通気孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。

9 ドアロックキー
フロントドア用のドアロックキーを取り付けておくことができます。

10 輸送ロック 1（M4、上）、輸送ロック 2（M4、中）、輸送ロック 3（M3 ナット付、下）
設置時に取り外した輸送ロックは、ここに取り付けておきます。

ラベルについて



1 モデル名
シリアル No. とともにユニット背面のラベルに記載されています。技術サポートを受けるときは、このラベルに記載のモデル名とシリアル No. をご連絡ください。

2 シリアル No.
モデル名とともにユニット背面のラベルに記載されています。技術サポートを受けるときは、このラベルに記載のシリアル No. とモデル名をご連絡ください。

第2章 設置する

概要

本章では、本機を設置場所に設置し、ホストコンピューターに接続するまでの一般的な手順と初期設定について説明します。ご使用の環境によっては、手順や設定が異なる場合があります。

開梱する

ご注意

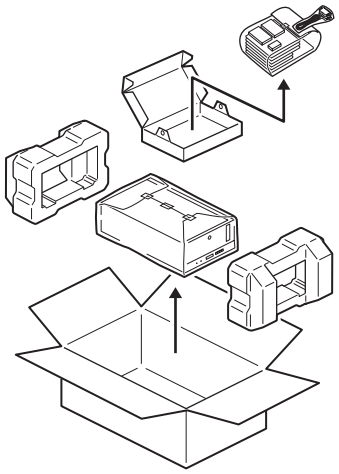
本機の重量は約 27kg（ドライブ 1 台搭載時）です。必ず 2 人以上で作業してください。腰を痛めたり、落下してけがの原因または機器の損傷につながる可能性があります。

メモ

箱と梱包材、輸送ロックは、本機を移動したり輸送したりするときに必要です。捨てないで必ず保管してください。

1 下記に記載されている手順に従って、本機を箱から取り出す。

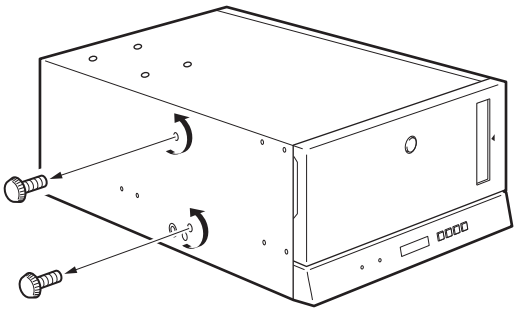
ビニールやテープなどの梱包材も取り除いてください。



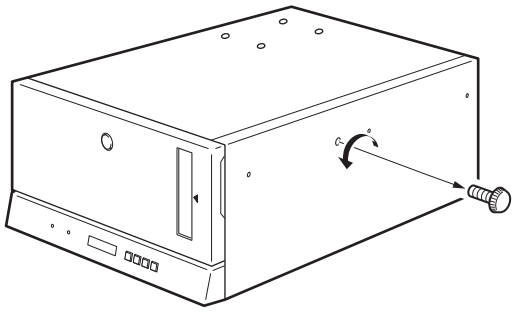
2 輸送中の破損などがないか確認する。

万一破損などがあった場合は、本機を使用せずに、ただちにお買い上げ店にご連絡ください。

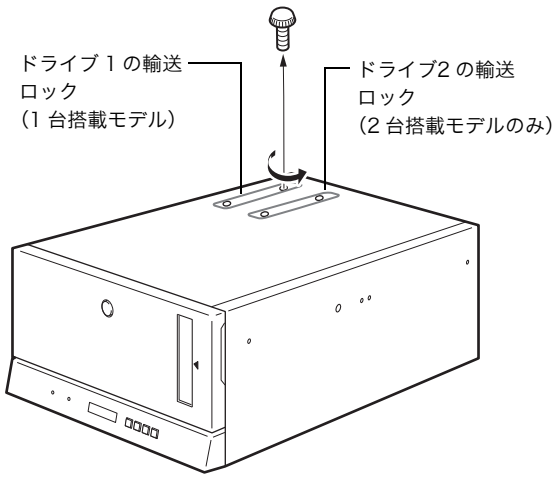
3 本機左側面の輸送ロック 1、2（M4）を、図のように回して取り外す。



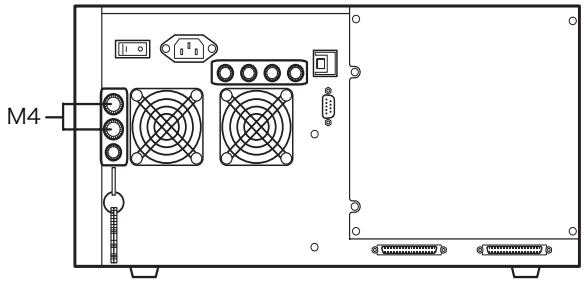
4 本機右側面の輸送ロック 3（M3、ナット付）を、図のように回して取り外す。



5 本機上面のドライブ用の輸送ロック（M3）を、図のように回して取り外す。



6 取り外した輸送ロックを、図のように本機背面に取り付ける。



同梱品を確認する

箱を開けたら、以下のものがそろっているかお確かめください。付属品の中に欠けているものがあるときは、お買い上げ店にご連絡ください。

・S-AIT ライブラリー（1）
・クイックスタートガイド（1）
・SCSI ターミネーター（1）
・バーコードラベルシート（2）
・ドアロックキー（2）
・フロントドアリリースピン（1）
・電源ケーブル（1）（日本国内モデルのみ同梱）
・保証書（1）（日本国内モデルのみ同梱）
・クリーニングメディア（1）（日本国内モデルのみ同梱）

メモ

・上記以外に、説明書、書類、ケーブルなどが同梱されている場合があります。
・箱に貼られている同梱品リストに、すべての同梱品が記載されています。

取扱説明書およびデバイスドライバーは、ソニーのホームページからダウンロードしてください。

日本語
http://www.sony.co.jp/Products/storagesolution/
英語
http://www.sony.net/Products/storagesolution/

ホストコンピューターの準備をする

設置を行う前に、ホストコンピューターの準備をします。

1 本機に接続するホストコンピューターに、SCSI ホストバスアダプターカードが取り付けられているか確認する。

2 本機に対応しているアプリケーションソフトウェアを、ホストコンピューターにインストールする。

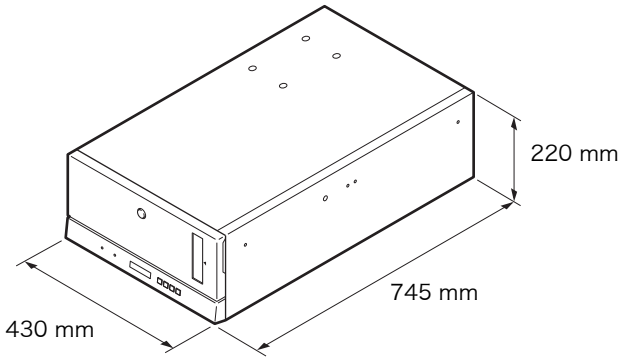
本機で使用できるアプリケーションソフトウェアやオペレーティングシステムについては、お買い上げ店にお問い合わせください。

ご注意

本機は LVD SCSI デバイスです。シングルエンドはサポートしていません。LVD をサポートするホストバスアダプターカードをお使いください。

本機を設置する

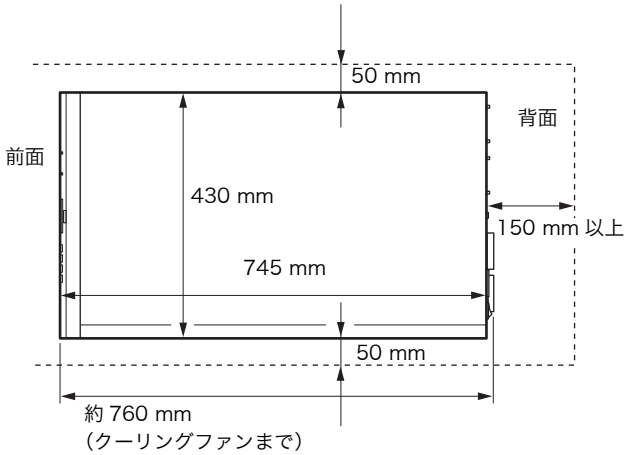
本機の質量は約 27 kg（ドライブ 1 台搭載時、ドライブ 2 台搭載時は約 31 kg）で、大きさは以下のとおりです。あらかじめ設置場所の強度とスペースを十分確認してから、設置してください。



別売のラックマウントキットを使用すると、本機を EIA STANDARD（ユニバーサルピッチ）の 19 インチラックに据え付けることができます。ラックマウントキットについては、お買い上げ店にお問い合わせください。

メモ

コンセントに近く、水平な場所に設置してください。また、本機の後部には空気が循環するように 150 mm 以上のスペースを空けてください。



重要

必ず次の条件を満たす場所に設置してください。

・水平な場所
・換気扇や窓、エアコンなどから離れている場所（空気の流れがない場所）
・ファクスやプリンターなどから離れている場所
（トナーや紙紛が飛んでこない場所）

ご注意

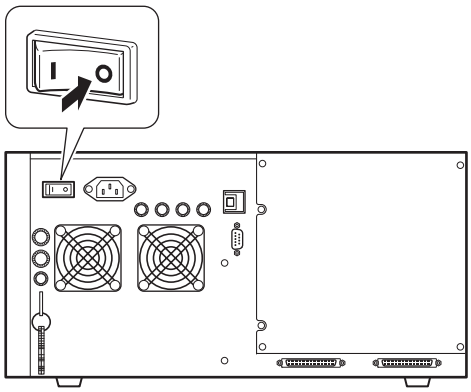
・本機を積み重ねたり、本機の上に物を載せないでください。
・急激な温度変化がある場所には設置しないでください。ドライブ内部に結露が生じ、本機の故障の原因となります。

電源ケーブルを接続する

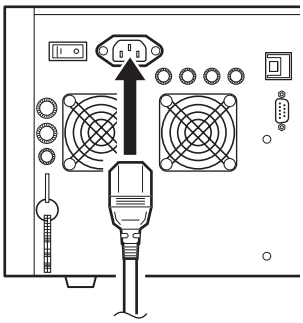
メモ

・電源ケーブルが付属されていない場合は、別途ご用意ください。同梱品リストは箱に記載されています。
・必ずアース線を接続してください。

1 本機の電源が切られていることを確認する。



2 電源ケーブルの一方を本機の電源コネクターに接続し、もう一方をコンセントに接続する。



電源ケーブル

ご注意

マガジンを取り出した場合、絶対に電源を入れた状態で内部に手を入れないでください。マガジンより奥に手を入れるとはさまれて、けがの原因になる可能性があります。

SCSI ケーブルを接続する

SCSI ケーブルで、本機とホストコンピューターを接続します。ここでは、一般的な接続手順を説明します。接続には、市販の Ultra 160/m SCSI LVD ケーブルをお使いください。本機側は 68 ピンハーフピッチのコネクターを使用しています。

ご注意

- 本機はシングルエンドをサポートしていません。
- 本機を HVD（High Voltage Differential）SCSI バスに接続しないでください。接続すると、本機または SCSI バス上の他のデバイスが故障する恐れがあります。
- SCSI ケーブルを接続するときは、本機、ホストコンピューターおよびすべての接続機器の電源を切ってください。
- 本機を SCSI の終端に接続する場合は、必ずターミネーターを取り付けてください。
- SCSI コネクターに SCSI ケーブルがしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- LVD（Low Voltage Differential）SCSI では、ホストコンピューターと SCSI バス上の最後の機器とをつなぐ SCSI ケーブルの全長（内部および外部ケーブルのすべての長さを含む）が、12 m 未満になるようにしてください。本機の内部ケーブルの長さは 2 m です。
- 分岐はできません。

メモ

あらかじめ必要な SCSI ケーブルを用意しておいてください。

ホストコンピューターには、本機を含め 15 台の SCSI 機器を接続できます。

メモ

・工場出荷時の SCSI ID の設定は、次のとおりです。
- ライブラリー：　0
- S-AIT ドライブ 1：1
- S-AIT ドライブ 2：2（ドライブを 2 台搭載しているモデルの場合）

・同一の SCSI バスに、重複する SCSI ID を設定しないでください。

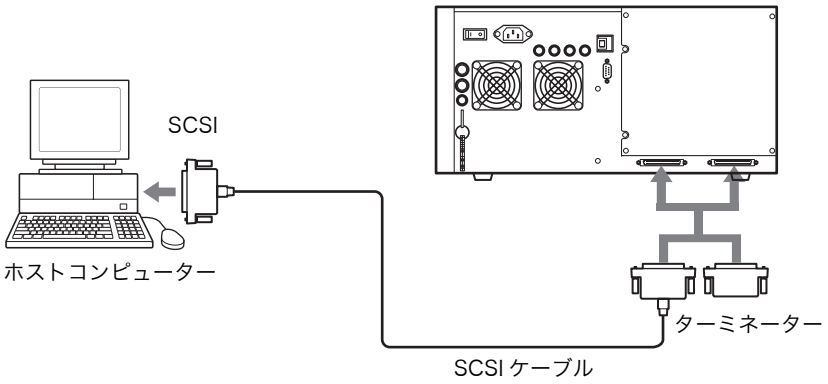
SCSI ID の設定については、第 3 章の「SCSI ID を設定する」（30 ページ）を参照してください。

1 ホストコンピューターと本機の電源が切られていることを確認する。

2 図のようにして、SCSI ケーブルとターミネーターを接続する。

1 市販の SCSI ケーブルを使って、本機とホストコンピューターを接続します。

2 もう一方のコネクターにターミネーターを取り付けます。



複数の SCSI 機器を接続する場合

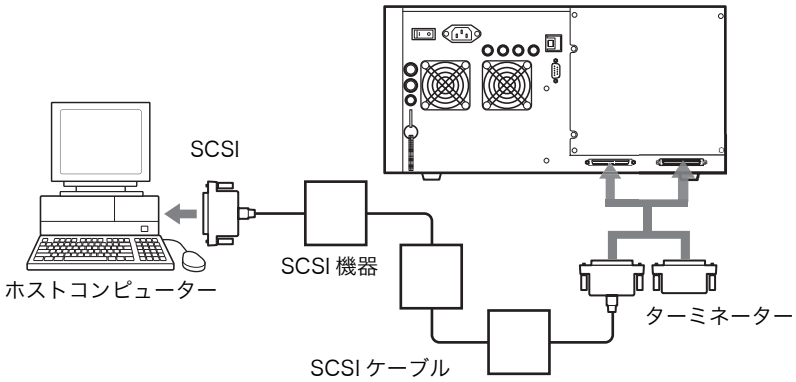
1 本機を含め SCSI バス上のすべての SCSI 機器の電源を切る。

ご注意

SCSI 機器に SCSI ケーブルを抜き差しする際は、必ずすべての SCSI 機器（本機を含む）の電源を切ってください。故障の原因となります。

2 図のようにして、SCSI ケーブルで接続し、SCSI バスの終端の機器にターミネーターを接続する。

その後ホストコマンドを発行し、オペレーションを再開させてください。



メモ

- ホストコンピューターと SCSI バス上の最後の機器とをつなぐ SCSI ケーブルの全長（内部および外部ケーブルのすべての長さを含む）が、12 m 未満になるようにしてください。（本機の内部ケーブルの長さは 2 m です。）
- 本機を SCSI バスの終端に接続する場合は、必ず付属のターミネーターを取り付けてください。

第3章 基本的な使いかた

概要

本章では、操作パネルの使いかたや本機の基本的な設定、カートリッジの取り扱いなどについて説明します。

本機の操作について

本機をホストコンピューターで制御するか、本機前面の操作ボタンで制御するかによって、オペレーションモード（ON LINE モードと USER モード）を切り替えて使用します。各モードの詳細については、「オペレーションモードについて」(26 ページ）を参照してください。

ON LINE モード

ホストコンピューターから本機を制御するときのモードです。
ホストコンピューターの操作については、ホストコンピューターやお使いのアプリケーションソフトウェアの説明書を参照してください。

USER モード

本機前面にある操作ボタンを使って本機を制御するときのモードです。

ご注意

- 本機が ON LINE モードまたは USER モードで動作しているときは、絶対に電源を切らないでください。メディアやデータ、本機の内部が破損する原因となります。
- 電源を切るときは「電源を入れる / 切る」（28 ページ）を参照してください。

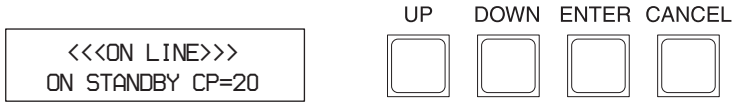
操作パネルの使いかた

液晶ディスプレイと操作ボタン

本機前面には、16 桁 2 行の液晶ディスプレイと 4 つの操作ボタンがあります。

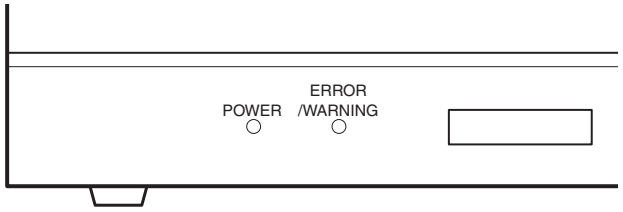
・ディスプレイには、現在の状態やモードが表示されます。

・操作ボタンを使って、各種コマンド操作ができます。コマンド操作の詳細については、第 4 章「コマンドの詳細」（37 ページ）を参照してください。



LED 表示

本機前面にある LED で、ライブラリーの状態を知らせます。



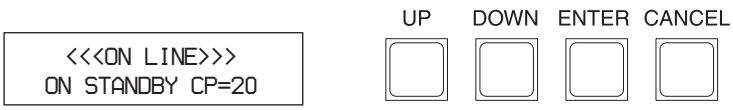
POWER:	電源が ON のときに緑色に点灯します。
ERROR/WARNING:	ライブラリーの状態を表示します。
	エラー発生時： オレンジ色に点灯します。
	警告発生時： オレンジ色に点滅します。

オペレーションモードについて

ここでは、ON LINE モードと USER モードの詳細について説明します。

ON LINE モード

本機の電源スイッチを押すと、ON LINE モードで起動します。
ON LINE モードのときは、液晶ディスプレイに「<<<ON LINE>>>」と表示されます。
ライブラリーおよびドライブにエラーがない場合は、通常以下の情報が表示されます。



表示の見かた
上段：　現在「ON LINE モード」であることを示します。
下段：　ピッカーの位置が棚の 20 番目にあることを示します。

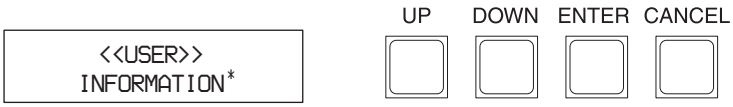
ボタン操作
［UP］ボタン：　　USER モードへの切り替えの確認を行います。
［DOWN］ボタン：　操作できる機能はありません。
［ENTER］ボタン：　操作できる機能はありません。
［CANCEL］ボタン：操作できる機能はありません。

LED 表示
POWER：　　緑点灯
ERROR/WARNING：　消灯

メモ
ON LINE モードのその他の表示については、第 5 章「ON LINE モードの 表示について」（65 ページ）を参照してください。

USER モード

USER モードでは、次の操作ボタンを使って、各種操作ができます。



表示の見かた
上段：　現在のモードが表示されます。
下段：　メニューが表示されます。

USER モードには、次の 3 つのメニューがあります。
INFORMATION　：INQUIRY、SERIAL NUMBER などを表示します。
OPERATION　：REZERO UNIT などのコマンドを発行します。
CONFIGURATION：SCSI ID、パスワードなどを設定します。

ボタン操作
［UP］ボタン：　　次のメニューを表示します。
［DOWN］ボタン：　前のメニューを表示します。
［ENTER］ボタン：　下位のコマンドメニューを表示します。
［CANCEL］ボタン：ON LINE モードへの切り替えの確認を行います。

［ENTER］ボタンを押すと、使用可能な操作コマンドメニューが表示されます。

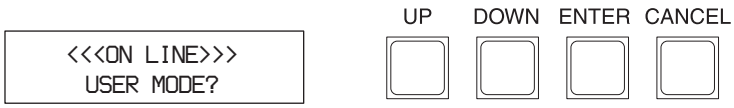
ボタン操作
［UP］ボタン：　　次のコマンドメニューを表示します。
［DOWN］ボタン：　前のコマンドメニューを表示します。
［ENTER］ボタン：　コマンドを実行します。
［CANCEL］ボタン：上位のメニューに戻ります。

コマンドメニューによっては、ボタンの機能が異なる場合があります。詳細については、第 4 章「コマンドの詳細」（37 ページ）を参照してください。

ON LINE モードから USER モードに切り替えるには

1 ON LINE モードのときに［UP］ボタンを押す。

次のメッセージが表示されます。



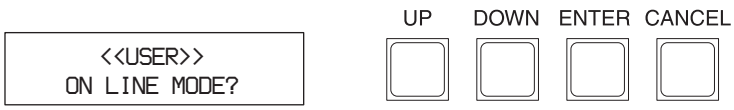
2 ［ENTER］ボタンを押す。

USER モードに切り替わります。
USER モードのパスワードを設定しているときは、パスワード入力画面に変わりますので、パスワードを入力してください。
モードの切り替えをキャンセルするときは、［CANCEL］ボタンを押します。

USER モードから ON LINE モードに切り替えるには

1 USER モードのときに［CANCEL］ボタンを押す。

USER モードのパスワードを設定していないときは、直接 ON LINE モードに切り替わります。
パスワードを設定しているときは、次のメッセージが表示されます。



2 ［ENTER］ボタンを押す。

ON LINE モードに切り替わります。
モードの切り替えをキャンセルするときは、［CANCEL］ボタンを押します。

電源投入時に USER モードへ移行するには

[DOWN]、[ENTER]、[CANCEL] ボタンを同時に押しながら、本機の電源スイッチを押すことにより、USER モードで起動します。
ディスプレイの表示が「<<<ON LINE >>>」から「<<USER>>」に変わるまで、ボタンを押し続けてください。

ご注意

- USER モードのコマンドは、ホストコンピューターをシャットダウンするか、アプリケーションソフトウェアが動作していないことを確認した上で実行してください。
- アプリケーションソフトウェアから、メディアや格納エレメントアドレス情報を管理している場合は、以下のメディア移動コマンドを絶対に使用しないでください。アプリケーションソフトウェアによっては、ライブラリー内部の格納エレメントアドレス情報と不一致となり、システムが正常に動作しない場合があります。
  - MOVE MEDIUM
  - IMPORT MEDIUM
  - EXPORT MEDIUM
  - MAGAZINE XCHG
  - FILL LIBRARY
  - EMPTY LIBRARY

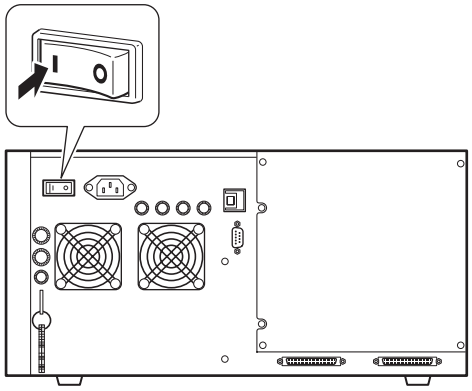
  万一、上記の注意事項に反して操作し、正常に動作しなくなった場合は、USER モードの「OPERATION」－「CTG INVENTORY」コマンドを実行した後、アプリケーションソフトウェアによるイニシャライズを行ってください。

電源を入れる / 切る

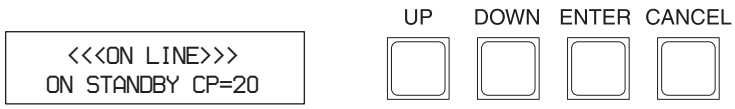
電源を入れる

本機の電源を入れてから、ホストコンピューターの電源を入れます。

1 本機背面の電源スイッチを押す。



しばらくすると、液晶ディスプレイに「<<<ON LINE>>>」と表示されます。（このときは、ON LINE モードで起動しています。）



この画面が表示されてから、ホストコンピューターの電源を入れてください。

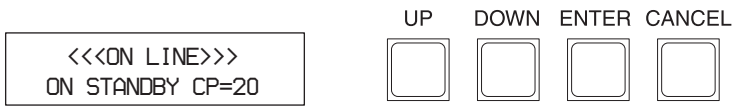
2 ホストコンピューターの電源を入れる。

メモ

- 本機の電源を入れてからホストコンピューターの電源を入れるまでの時間が短いと、SCSI ID が正しく認識されないことがあります。本機の電源を入れた後、上記の画面が表示された後で、ホストコンピューターの電源を入れてください。
- 上記のように動作しないときは、「その他」の「故障かな？と思ったら」（77 ページ）を参照してください。

電源を切る

1 液晶ディスプレイの表示が「ON STANDBY」であることを確認する。



2 本機背面の電源スイッチを押す。

ご注意

- 本機が ON LINE モードまたは USER モードで動作しているときは、絶対に電源を切らないでください。メディアやデータ、本機の内部が破損する原因となります。
- 本機が動作中は、液晶ディスプレイの下段に「FROM TO」や「Please Wait..」など、ライブラリーの動作状況が表示されます。
- 再度電源を入れるときは、10 秒間待ってから電源を入れてください。

SCSI ID を設定する

USER モードの「CONFIGURATION」－「SCSI-ID SET」で、ライブラリーや S-AIT ドライブの SCSI ID を設定します。
SCSI ID を変更する必要がある場合は、第 4 章の「SCSI-ID SET」（61 ページ）をご覧ください。

SCSI ID について

ライブラリーと S-AIT ドライブは、それぞれ別の SCSI ID を設定する必要があります。
工場出荷時の SCSI ID は、次のように設定されています。

- ライブラリー：　0
- S-AIT ドライブ 1：1
- S-AIT ドライブ 2：2（ドライブを 2 台搭載しているモデルの場合）

ご注意

- 本機の SCSI ID は 0 ～ 15 の範囲で設定できますが、優先度は、7（最高）から 0、15 から 8（最低）になります。
- ホストコンピューターに取り付けられている SCSI ホストバスアダプターカードや他の SCSI 機器と重複する SCSI ID を設定しないでください。通常、ホストコンピューターの SCSI ホストバスアダプターカードは、「7」に設定されています。

メモ

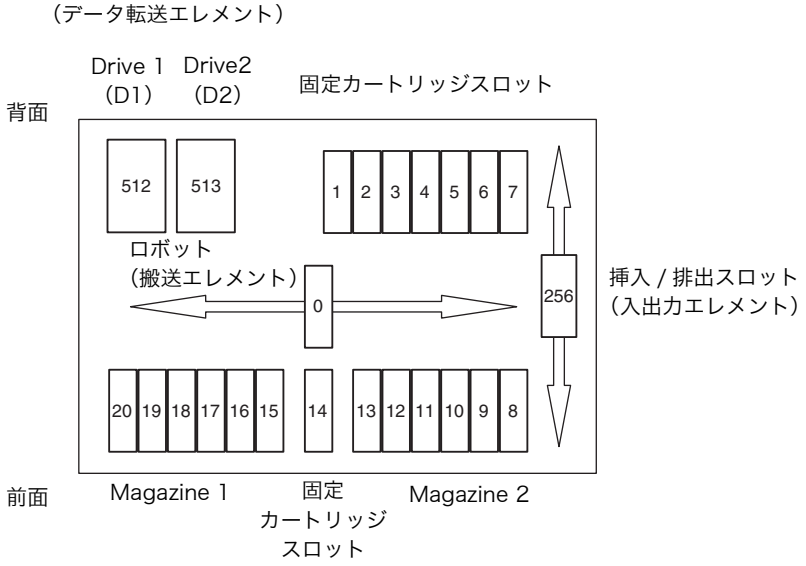
SCSI ID は、ブラウザからも設定できます。詳しくは、「S-AIT ライブラリー Administration Tool」の取扱説明書を参照してください。

エレメントアドレスの割り当てについて

カートリッジを収納できる物理的位置のことをエレメントといいます。アプリケーションソフトウェアでは、エレメントアドレスを使用して、本機のエレメントを識別します。本機では、以下のようにカートリッジスロットと S-AIT ドライブにエレメントアドレスが割り当てられています。

メモ

- 本機のエレメントアドレスは、固定番号になっていますので、変更することはできません。
- 本機の液晶ディスプレイでは、エレメントアドレスではなく、それぞれ以下のように表示されます。
  - マガジンスロットおよび固定スロット（格納エレメント）：　1 ～ 20
  - Drive 1、Drive 2（データ転送エレメント）：　D1 および D2
  - 挿入 / 排出スロット（入出力エレメント）：　IE
  - ロボット（搬送エレメント）：　MT
- 本書では、挿入 / 排出スロットをメールスロットと記載している場合もあります。



カートリッジをセットする

カートリッジの準備をして、本機にカートリッジをセットします。

カートリッジを準備する

カートリッジに付属のバーコードラベルを貼って、カートリッジを使用するための準備をします。

ご注意

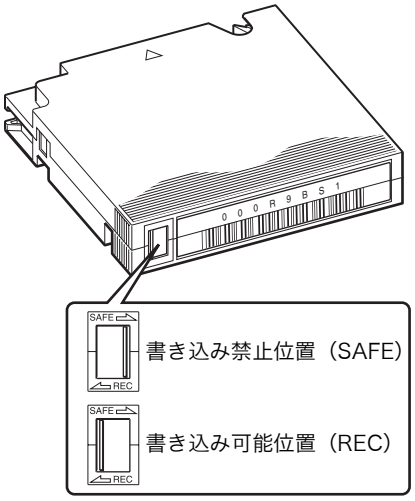
本機の工場出荷時は、バーコードを読み取るように設定されています。バーコードを読み取るように設定されている場合は、電源を入れたときやカートリッジを操作した後のイニシャライズの時間が非常に長くなります。バーコードラベルを使用しない場合は、バーコードの読み取りをしない設定に変更してください。
バーコードの読み取り設定については、第 4 章の「BARCODE SET」（62 ページ）を参照してください。

1 カートリッジに付属のバーコードラベルを貼る。

図の位置に、数字を上にして、平行に貼ってください。

2 カートリッジの誤消去防止用ツメが書き込み可能の状態になっているか確認する。

カートリッジの取扱いについては、第 6 章「カートリッジについて」（71 ページ）をご覧ください。



カートリッジ挿入／排出スロットを使ってカートリッジをセットする

カートリッジ挿入／排出スロットを使ってカートリッジをライブラリーにセットします。カートリッジをセットするときは、エレメントアドレスでスロットを指定します。エレメントアドレスについては、「エレメントアドレスの割り当てについて」（31 ページ）を参照してください。

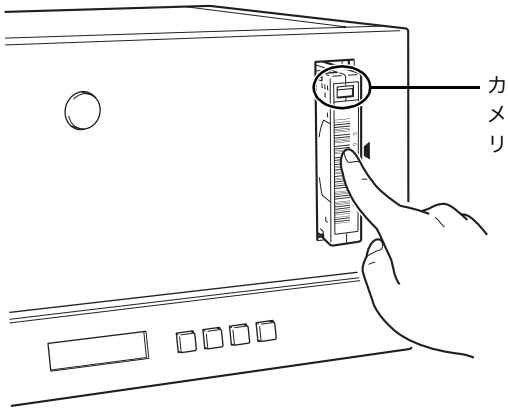
1 USER モードの［OPERATION］－［IMPORT MEDIUM］などのコマンドを使って、カートリッジをセットするスロットのエレメントアドレスを設定する。

メモ

カートリッジ挿入 / 排出スロットを使用して操作するコマンドには、以下のものがあります。詳しくは、第 4 章「コマンドの詳細」（37 ページ）を参照してください。
［OPERATION］－［MOVE MEDIUM］、［IMPORT MEDIUM］、［EXPORT MEDIUM］、［DRV CLEANING］、［DRV F/W UP］、［FILL LIBRARY］、［EMPTY LIBRARY］

カートリッジ挿入 / 排出スロットのシャッターが開きます。

2 図の向きにカートリッジを挿入し、カートリッジが引き込まれるまで、カートリッジを押す。



ご注意

- カートリッジ挿入 / 排出スロットのシャッターは自動で開閉します。シャッターの内部に手・指を入れないでください。けがの原因となる可能性があります。
- カートリッジを挿入する向きを間違えないようにしてください。無理に入れると、カートリッジや本機を破損する原因となります。
- カートリッジの向きを間違えて挿入した場合や、カートリッジが所定の位置まで押し込まれなかった場合は、自動的にカートリッジが排出されます。この場合は、［CANCEL］ボタンを押した後、再度カートリッジ挿入 / 排出スロットからの挿入コマンドを実行し、正しい向きでカートリッジを入れ直してください。

マガジンを使ってカートリッジをセットする

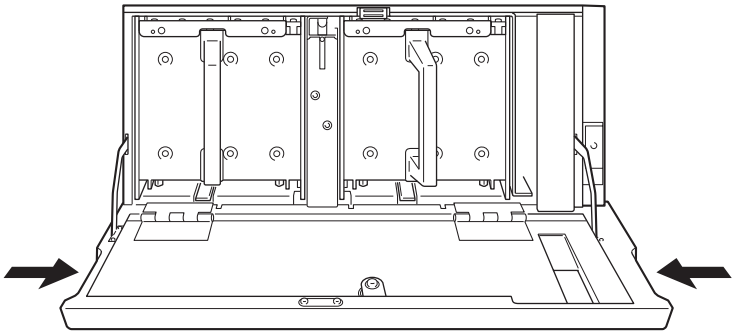
マガジンを使って、カートリッジを一括してライブラリーにセットします。

1 USER モードの［OPERATION］－［MAGAZINE XCHG］を実行する。

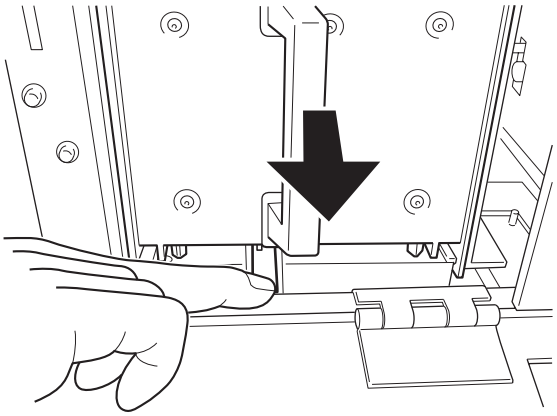
このコマンドは、マガジンの交換の動作を行います。詳しくは、第 4 章の「MAGAZINE XCHG」（50 ページ）を参照してください。

フロントドアの開閉ロックが解除され、フロントドアを開けることが可能になります。

2 フロントドア両側面のくぼみをつかみ、フロントドアを開く。



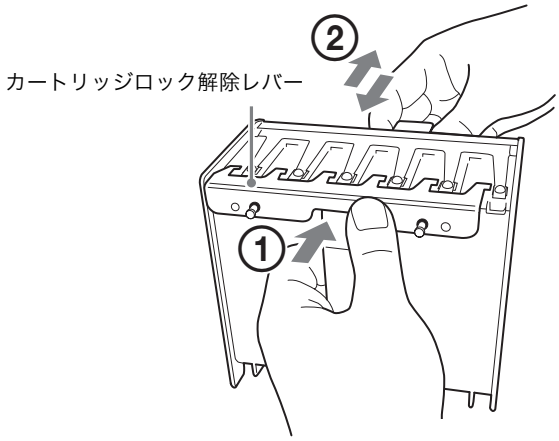
3 マガジンロックリリースを下方に押しながら、ハンドルを持ってマガジンを手前に引く。

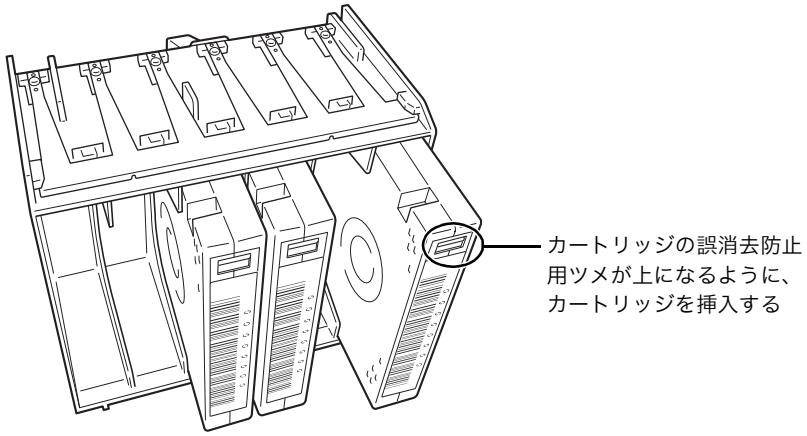


ご注意

- フロントドアを開けた状態で、マガジンロックリリースおよびマガジン以外の部分に触らないでください。本機の故障の原因となります。
- マガジンを取り出した場合、絶対に電源を入れた状態で内部に手を入れないでください。マガジンより奥に手を入れるとはさまれ、けがの原因となる可能性があります。

4 マガジンのカートリッジロック解除レバーを押しながら、カートリッジをセットしたり、マガジンからカートリッジを取り出す。

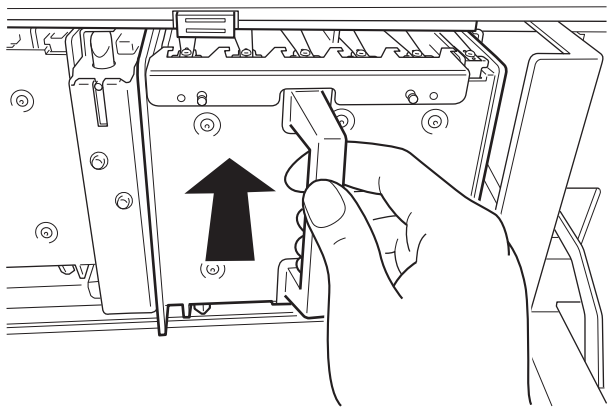




ご注意

カートリッジを挿入する向きを間違えないようにしてください。向きを間違えると、マガジンにカートリッジがきちんと入らないため、マガジンをライブラリーに正しく装着できなくなり、カートリッジや本機を破損する原因となります。

5 ハンドルを持って、図のようにして、マガジンをライブラリーに装着する。



ご注意

マガジンを本機に装着する場合や本機から取り出す場合は、絶対にハンドルの上のカートリッジロック解除レバーを押さないでください。カートリッジのロックが外れ、本機の故障の原因となります。フロントドアを閉めると、自動的にカートリッジのロックが解除されます。

6 フロントドアを閉める。

フロントドアが閉まると、自動的にカートリッジの認識動作が始まります。

第4章 コマンドの詳細

概要

本章では、USER モードで使用可能な操作コマンドの詳細について説明します。

USER モードのコマンドメニュー一覧

No.	メニュー表示	機能	参照先
INFORMATION メニュー			39 ページ
1	INQUIRY DISP	ライブラリーやドライブの機種名、ファームウェアのバージョンを表示します。	39 ページ
2	SERIAL DISP	ライブラリーやドライブの製品シリアル番号を表示します。	40 ページ
3	BARCODE DISP	各スロットやドライブ内のメディアのバーコード情報を表示します。	40 ページ
4	ERROR LOG DISP	エラー発生時のログデータを表示します。(最新 100 個)	41 ページ
5	LIFE LOG DISP	各メカ部の寿命管理データ (使用回数) を表示します。	42 ページ
6	LOAD CNT DISP	ドライブへのメディアの挿入回数を確認できます。	42 ページ
7	NETWORK	ライブラリーの MAC アドレスを表示します。	43 ページ
OPERATION メニュー			44 ページ
1	REZERO UNIT	本機の初期化を行います。(SCSI コマンド REZERO UNIT と同等)	44 ページ
2	CTG INVENTORY	本機内のメディアの有無を調べ表示します。(SCSI コマンドの INITIALIZE ELEMENT STATUS や READ ELEMENT STATUS と同等)	45 ページ
3	MOVE MEDIUM	搬送元や搬送先を指定することで、メディアの移動が行えます。(SCSI コマンドの MOVE MEDIUM と同等)	46 ページ
4	IMPORT MEDIUM	搬送先を指定することで、メディアを外部から挿入できます。(SCSI コマンドの STORE MEDIUM と同等)	47 ページ
5	EXPORT MEDIUM	搬送元を指定することで、メディアを外部に排出できます。(SCSI コマンドの RETURN MEDIUM と同等)	48 ページ
6	BARCODE SEARCH	各スロット内のメディアのバーコード情報を取得します。	49 ページ
7	MAGAZINE XCHG	マガジンの交換動作を行います。	50 ページ
8	SHIPPING PARK	シャットダウン処理を行います。(メカを輸送位置に移動し、ログメモリーを不揮発メモリーに記憶させます。)	52 ページ
9	DRV CLEANING	ドライブのクリーニング動作を行います。(クリーニングメディアを挿入 / 排出スロットから入れてクリーニングし、終了後、挿入 / 排出スロットから排出します。)	53 ページ
10	DRV F/W UP	ドライブのファームウェアの更新動作を行います。(更新用メディアを挿入 / 排出スロットから入れてドライブのファームウェアをアップロードし、終了後挿入 / 排出スロットから排出します。)	55 ページ
11	FILL LIBRARY	メディアの巻数を指定することにより、指定巻数のメディアを挿入 / 排出スロットから挿入できます。	58 ページ

No.	メニュー表示	機能	参照先
12	EMPTY LIBRARY	ライブラリー内のメディアをすべて外部に排出できます。	59 ページ
13	DRV EJECT	ドライブからメディアを排出（EJECT）できます。	59 ページ
CONFIGURATION メニュー			61 ページ
1	SCSI-ID SET	ライブラリーおよびドライブの SCSI ID の表示や設定変更ができます。	61 ページ
2	BARCODE SET	バーコードリーダーの有効 / 無効を設定できます。	62 ページ
3	USER PASSWORD	USER モードのパスワードを変更できます。	62 ページ
4	PASSWORD MODE	USER モードのパスワード要求の有無を設定できます。	63 ページ
5	DRV HOT SWAP	ドライブのホットスワップ操作（電源オン / オフ）を行います。	63 ページ

重要

工場出荷時は、次のように設定されています。

・SCSI ID
  - ライブラリー：　0
  - S-AIT ドライブ 1：1
  - S-AIT ドライブ 2：2（ドライブを 2 台搭載しているモデルの場合）
・バーコードリーダー：　有効
・USER モードのパスワード要求：無効
・USER モードのパスワード：　000

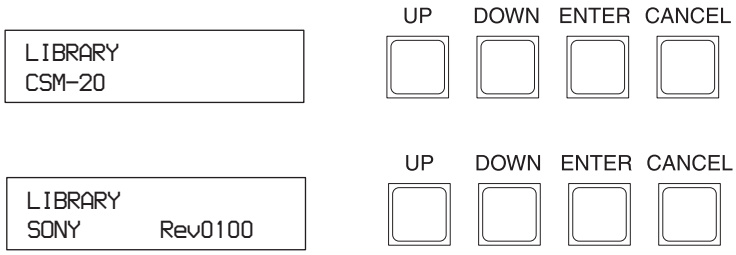
INFORMATION メニュー

INFORMATION メニューには、以下のコマンドがあります。
・INQUIRY DISP （39 ページ）
・SERIAL DISP （40 ページ）
・BARCODE DISP （40 ページ）
・ERROR LOG DISP （41 ページ）
・LIFE LOG DISP （42 ページ）
・LOAD CNT DISP （42 ページ）
・NETWORK （43 ページ）

INQUIRY DISP

本コマンドでは、本機やドライブが SCSI コマンドの Inquiry を受信した場合に返送する Vendor ID、Product ID、Revision を表示します。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



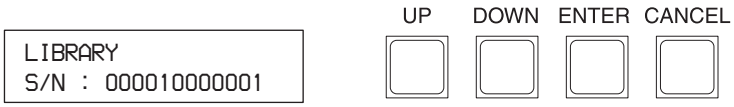
画面の見かた
上段： 現在選択されているデバイスが表示されます。
下段： 現在選択されているデバイスの Product ID、Vendor ID、Revision が表示されます。
ライブラリー（Product ID）→ ライブラリー（Vendor ID、Revision）
→ドライブ 1（Product ID）→ ドライブ 1（Vendor ID、Revision）
→ドライブ 2（Product ID）→ ドライブ 2（Vendor ID、Revision）
の順に表示されます。

ボタン操作
［UP］ボタン： 次のデバイスの内容を表示します。
［DOWN］ボタン： 1 つ前のデバイスの内容を表示します。
［ENTER］ボタン： 機能がありません。
［CANCEL］ボタン： コマンドメニューに戻ります。

SERIAL DISP

本コマンドでは、本機やドライブの製品シリアル番号を表示します。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



画面の見かた

下段：　現在選択されているデバイスのシリアル番号が表示されます。
　　ライブラリー→ドライブ１→ドライブ２の順に表示されます。

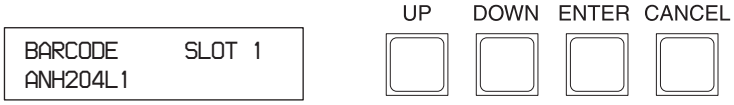
ボタン操作

［UP］ボタン：　　次のデバイスのシリアル番号を表示します。
［DOWN］ボタン：　１つ前のデバイスのシリアル番号を表示します。
［ENTER］ボタン：　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　コマンドメニューに戻ります。

BARCODE DISP

本コマンドでは、各スロットやドライブ内のメディアのバーコード情報を表示します。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



画面の見かた

上段：　現在選択されているスロット、ドライブ番号が表示されます。
下段：　現在選択されているスロット、ドライブ内のメディアのバーコード情報が表示されます。
　　SLOT1、SLOT2、・・・SLOT20、DRIVE1、DRIVE2、MAILSLOT、SLOT1 の順に表示されます。
　　＜表示内容＞
　　NO MEDIUM：　メディアが棚の中にありません。
　　NO MAGAZINE：棚が存在しません。（マガジンが抜かれています。）
　　空欄（表示なし）：　メディアは棚にありますが、バーコード情報がありません。（バーコードラベルが貼られていません。）

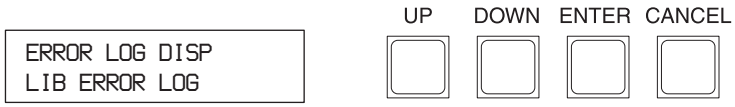
ボタン操作

［UP］ボタン：　　次の選択スロットのバーコード情報を表示します。
［DOWN］ボタン：　１つ前のスロットのバーコード情報を表示します。
［ENTER］ボタン：　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　コマンドメニューに戻ります。

ERROR LOG DISP

本コマンドでは、本機の最新のエラーログを 100 個表示します。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。

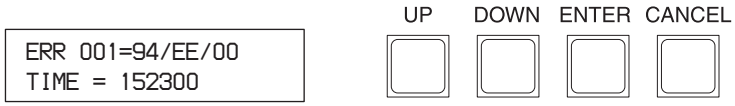


画面の見かた

下段：　デバイス（LIB：LIBRARY、DRV1：DRIVE1、DRV2：DRIVE2）が表示されます。

ボタン操作

［UP］ボタン：　次のデバイスを表示します。
［DOWN］ボタン：　1 つ前のデバイスを表示します。
［ENTER］ボタン：　選択したデバイスのエラーログを表示します。
［CANCEL］ボタン：　コマンドメニューに戻ります。



画面の見かた

上段：　発生したエラーコードを示します。
ERR 001：　AA/BB/CC
AA：Additional Sense Code（SCSI の ASC と同一です）
BB：Additional Sense Code Qualifier（SCSI の ASCQ と同一です）
CC：Additional Error Code（デバッグ用の値です）

・上記の表示では、94/EE（Media Jumping Error）がエラーコードです。
・エラーは 001 が最新で、100 が最古となります。

下段：　エラーの発生時間（秒単位）が表示されます。（ライブラリーの電源がオンになってからの累積時間（秒）です。）

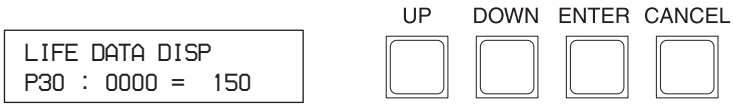
ボタン操作

［UP］ボタン：　次のエラーを表示します。
［DOWN］ボタン：　1 つ前のエラーを表示します。
［ENTER］ボタン：　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　コマンドメニューに戻ります。

LIFE LOG DISP

本コマンドでは、本機の寿命管理データ（使用回数）を表示します。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



画面の見かた

下段：　寿命管理データが表示されます。PXX：YYYY
(XX はページコード、YYYY はパラメーターポインターを表します。)
以下の「寿命管理データ一覧」を参照してください。

ボタン操作

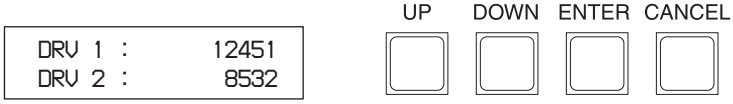
［UP］ボタン：　次のデータを表示します。
［DOWN］ボタン：　1 つ前のデータを表示します。
［ENTER］ボタン：　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　コマンドメニューに戻ります。

ページコード	パラメーターポインター	内容
30h	0000h	搬送エレメントがカートリッジ移動に使われた回数
	0001h − 0014h	各格納エレメントにカートリッジが挿入された回数
	0100h	入出力エレメント（MAIL SLOT）を使用した回数
	0200h − 0201h	データ転送エレメント（DRIVE）にカートリッジが挿入された回数
31h	0000h	カートリッジの挿入、排出（MAIL SLOT）を行った回数
	0001h	カートリッジ（PICKER）を移動した回数
	0002h	搬送エレメント（SLIDER）を移動した回数
	0003h	スイング動作を行った回数
32h	0000h	電源が投入された回数
33h	0001h − 0014h	各棚のカートリッジがドライブに挿入された回数

LOAD CNT DISP

本コマンドでは、データ転送エレメント（ドライブ）へのメディアの挿入回数を表示します。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



画面の見かた

DRV 1、DRV 2：　各ドライブにメディアが挿入された回数が表示されます。
(最大 9999999)

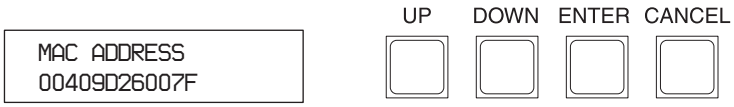
ボタン操作

［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン：　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　コマンドメニューに戻ります。

NETWORK

本コマンドは、本機のネットワーク設定をする際に使用します。
詳しくは、「S-AIT ライブラリー Administration Tool」の取扱説明書を参照してください。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



画面の見かた
下段：　ライブラリーの MAC アドレスが表示されます。

ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン：　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　コマンドメニューに戻ります。

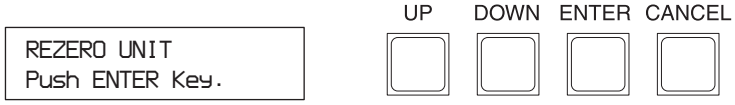
OPERATION メニュー

OPERATION メニューには、以下のコマンドがあります。
・REZERO UNIT （44 ページ）
・CTG INVENTORY （45 ページ）
・MOVE MEDIUM （46 ページ）
・IMPORT MEDIUM （47 ページ）
・EXPORT MEDIUM （48 ページ）
・BARCODE SEARCH （49 ページ）
・MAGAZINE XCHG （50 ページ）
・SHIPPING PARK （52 ページ）
・DRV CLEANING （53 ページ）
・DRV F/W UP （55 ページ）
・FILL LIBRARY （58 ページ）
・EMPTY LIBRARY （59 ページ）
・DRV EJECT （59 ページ）

REZERO UNIT

本コマンドでは、本機のメカ初期化動作（自己診断）が行えます。

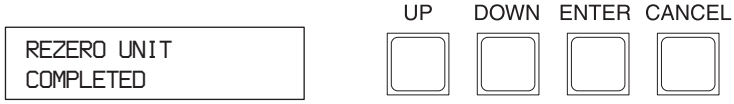
コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



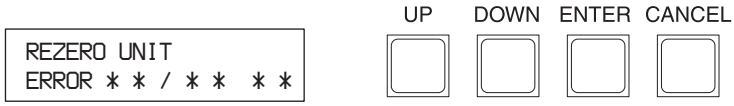
ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：　機能がありません。
［ENTER］ボタン：　初期化動作を実行します。
［CANCEL］ボタン：　コマンドメニューに戻ります。

このコマンドを実行すると、本機全体を初期化し、電源投入時と同じ状態に戻ります。

・本コマンドが正常終了した場合
次の画面が表示されます。



・本コマンドが異常終了した場合
次の画面が表示されます。

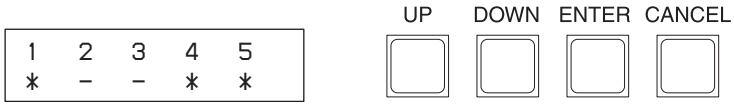


ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン： 機能がありません。
［CANCEL］ボタン：コマンドメニューに戻ります。

CTG INVENTORY

本コマンドでは、格納エレメントおよびデータ転送エレメント内のメディアの有無を検出したり、表示することができます。装置内のエレメントに、手動でメディアを入れたり、取り出したりした場合は、必ず本コマンドを実行し、ライブラリー内部のメディア情報を更新してください。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。

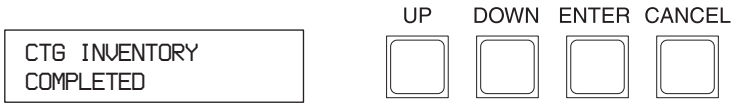


画面の見かた
上段： エレメントアドレスのアドレス番号を表示します。
　　1 ～ 20： 格納エレメントアドレス
　　D1、D2： DRIVE 1、DRIVE 2（データ転送エレメントアドレス）
　　IE： 入出力エレメントアドレス
　　MT： 搬送エレメントアドレス
下段： 各エレメント内のメディアの有無を表示します。
　　*： メディアあり。
　　-： メディアなし。
　　空欄： エレメントが存在しません。（マガジンが装着されていません。）

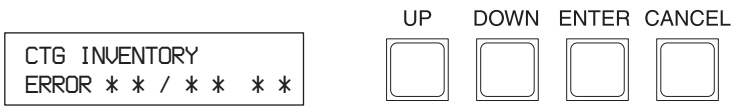
ボタン操作
［UP］ボタン： 次のエレメントアドレス群を表示します。
［DOWN］ボタン： 1 つ前のエレメントアドレス群を表示します。
［ENTER］ボタン： メディアの有無の検出動作を実行します。
［CANCEL］ボタン： コマンドメニューに戻ります。

このコマンドを実行すると、メカ動作を行うことにより、全エレメント内のメディアの有無を検出します。（検出には数分かかる場合があります。）

・本コマンドが正常終了した場合
次の画面が表示されます。



・本コマンドが異常終了した場合
次の画面が表示されます。

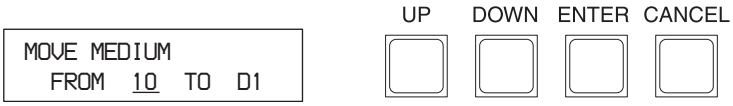


ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン：　　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　　コマンドメニューに戻ります。

MOVE MEDIUM

本コマンドでは、FROM POSITION から TO POSITION で設定したエレメントアドレスにメディアを移動できます。
本コマンドは、上位の管理ソフトウェアと無関係に移動しますので、操作時は十分注意してください。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



* この表示では、棚番 10 のメディアをドライブ 1 に移動することを示しています。

画面の見かた
FROM：搬送元エレメントアドレスを表示します。
TO：　搬送先エレメントアドレスを表示します。
　　1 ～ 20：　格納エレメントアドレス
　　D1、D2：　DRIVE 1、DRIVE 2（データ転送エレメントアドレス）
　　IE：　　入出力エレメントアドレス

ボタン操作
［UP］ボタン：　　FROM 値または TO 値を増やします。
［DOWN］ボタン：　FROM 値または TO 値を減らします。
［ENTER］ボタン：　カーソルが FROM の位置にある場合は、TO にカーソルが移動します。
　　カーソルが TO の位置にある場合は、MOVE MEDIUM 動作が実行されます。
［CANCEL］ボタン：　カーソルが TO の位置にある場合は、FROM にカーソルが移動します。
　　カーソルが FROM の位置にある場合は、コマンドメニューに戻ります。

・本コマンドが正常終了した場合
次の画面が表示されます。

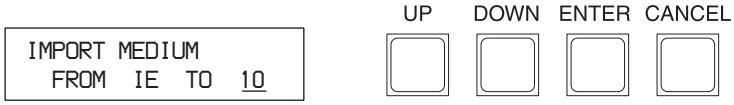
・本コマンドが異常終了した場合
次の画面が表示されます。

ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン：　　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　　コマンドメニューに戻ります。

IMPORT MEDIUM

本コマンドでは、入出力エレメントから TO POSITION で設定したエレメントアドレスにメディアを格納できます。

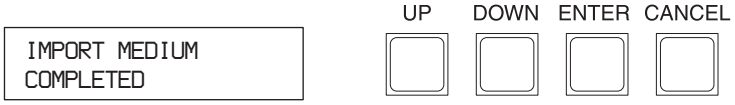
コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



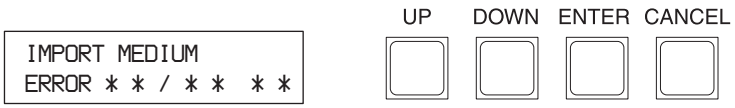
画面の見かた
FROM：　入出力エレメントアドレスを表示します。(IE 固定)
TO：　搬送先エレメントアドレスを表示します。
1 ～ 20： 格納エレメントアドレス
D1、D2：DRIVE 1、DRIVE 2（データ転送エレメントアドレス）

ボタン操作
［UP］ボタン：　　TO 値を増やします。
［DOWN］ボタン：　TO 値を減らします。
［ENTER］ボタン：　IMPORT MEDIUM 動作を実行します。
［CANCEL］ボタン：　コマンドメニューに戻ります。

・本コマンドが正常終了した場合
次の画面が表示されます。



・本コマンドが異常終了した場合
次の画面が表示されます。

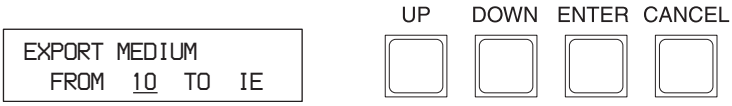


ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン：　　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　　コマンドメニューに戻ります。

EXPORT MEDIUM

本コマンドでは、FROM POSITION で設定したエレメントアドレスから入出力エレメントにメディアを排出できます。

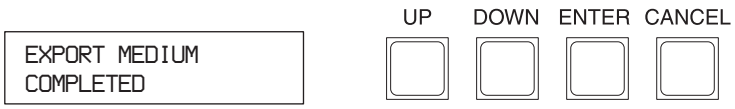
コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



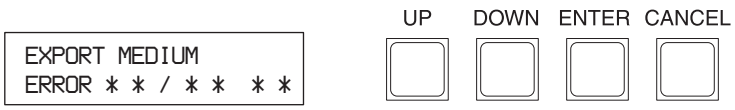
画面の見かた
FROM：　搬送元エレメントアドレスを表示します。
1 ～ 20：　格納エレメントアドレス
D1、D2：　DRIVE 1、DRIVE 2（データ転送エレメントアドレス）
TO：　入出力エレメントアドレスを表示します。(IE 固定)

ボタン操作
［UP］ボタン：　　FROM 値を増やします。
［DOWN］ボタン：　FROM 値を減らします。
［ENTER］ボタン：　EXPORT MEDIUM 動作を実行します。
［CANCEL］ボタン：　コマンドメニューに戻ります。

・本コマンドが正常終了した場合
次の画面が表示されます。



・本コマンドが異常終了した場合
次の画面が表示されます。

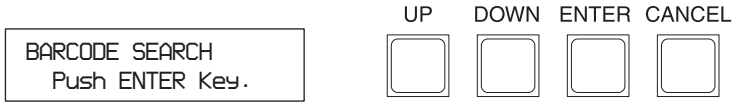


ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン：　　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　　コマンドメニューに戻ります。

BARCODE SEARCH

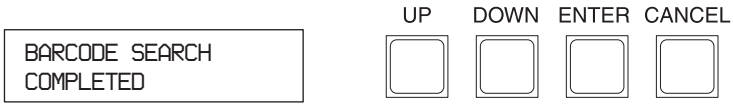
本コマンドでは、全メディアのバーコード情報取得動作を行います。
メディアが存在している棚に対して順にバーコード情報を検出しますが、メディアの有無の検出動作は行いません。メディアの有無の検出が必要な場合は、あらかじめ CTG INVENTORY を実行しておいてください。
ドライブ内のメディアのバーコード情報を取得する場合は、いったん MOVE MEDIUM を実行し、ドライブから棚にメディアを戻した後、本コマンドを実行してください。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。

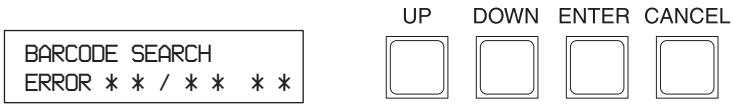


ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン： 機能がありません。
［ENTER］ボタン： バーコード情報の取得動作を行います。
メディアの巻数によっては、動作に数分かかることがあります。
［CANCEL］ボタン： コマンドメニューに戻ります。

・本コマンドが正常終了した場合
次の画面が表示されます。



・本コマンドが異常終了した場合
次の画面が表示されます。

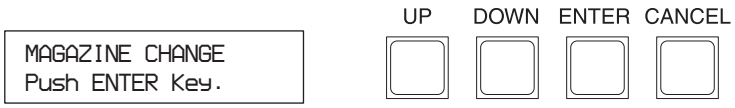


ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン： 機能がありません。
［CANCEL］ボタン： コマンドメニューに戻ります。

MAGAZINE XCHG

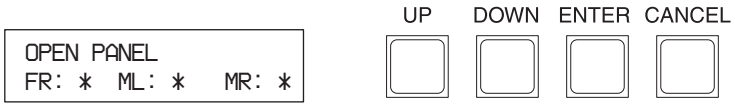
本コマンドでは、マガジンの交換動作を行います。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



ボタン操作

［UP］、［DOWN］ボタン：　機能がありません。
［ENTER］ボタン：　フロントパネルの開閉ロックを解除し、次の画面に移行します。（フロントパネルを開けることが可能になります。）
［CANCEL］ボタン：　コマンドメニューに戻ります。



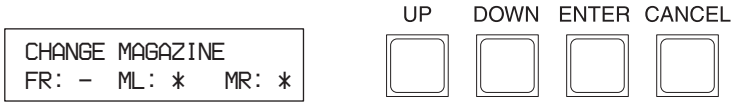
画面の見かた

FR：　フロントパネルの状態を表示します。（*: クローズ、-: オープン）
MR：　右側のマガジンの状態を表示します。（*: マガジンあり、-: マガジンなし）
ML：　左側のマガジンの状態を表示します。（*: マガジンあり、-: マガジンなし）

ボタン操作

［UP］、［DOWN］ボタン：　機能がありません。
［ENTER］ボタン：　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　コマンドメニューに戻ります。

ここで、フロントパネルを開けないと、約 30 秒後にコマンドメニューに戻ります。
フロントパネルを開けた場合は、次の画面が表示されます。



画面の見かた

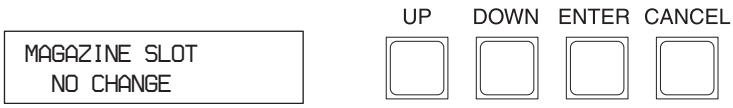
FR：　フロントパネルの状態を表示します。（*: クローズ、-: オープン）
MR：　右側のマガジンの状態を表示します。（*: マガジンあり、-: マガジンなし）
ML：　左側のマガジンの状態を表示します。（*: マガジンあり、-: マガジンなし）

ボタン操作

［UP］、［DOWN］ボタン：　機能がありません。
［ENTER］ボタン：　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　機能がありません。

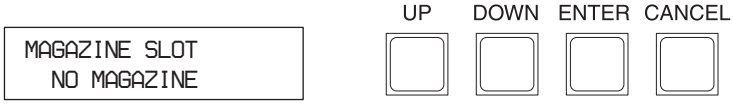
ここで、マガジンの交換を行います。
交換後、フロントパネルを閉じると、マガジン交換の状況により次の画面に移行します。

・マガジンの交換を実施しなかった場合
次の画面が表示されます。



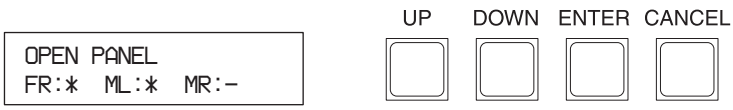
この画面の表示から 2 秒後に、コマンドメニューに戻ります。

・マガジンを取り出したまま、フロントパネルを閉じた場合
次の画面が表示されます。

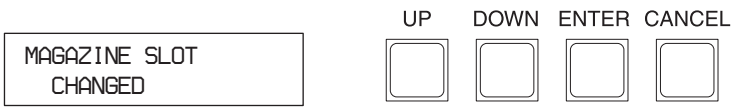


この画面の表示から 2 秒後に、次の画面が表示されます。必要に応じて、フロントパネルを開け、マガジンを装着してください。
マガジンを装着しない場合は、次の画面の表示から約 30 秒後に、コマンドメニューに戻ります。

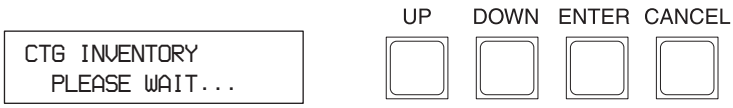
（例）右側のマガジンを取り出した状態で、フロントパネルを閉めた場合



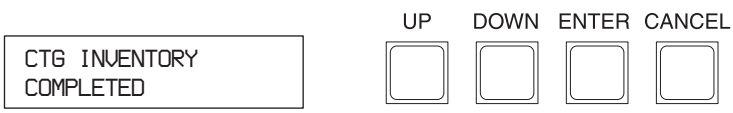
・マガジンの交換を行った場合
次の画面が表示されます。



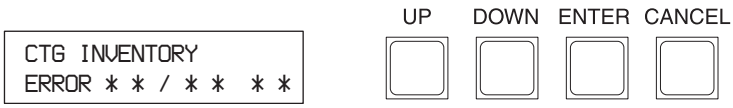
この画面の表示から 2 秒後に次の画面が表示され、CTG INVENTORY 動作が実行されます。



・本コマンドが正常終了した場合
次の画面が表示されます。



・本コマンドが異常終了した場合
次の画面が表示されます。



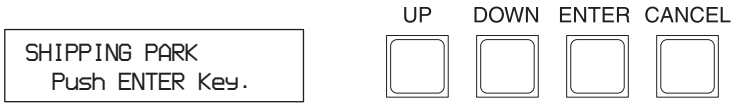
ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン：　　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　　コマンドメニューに戻ります。

SHIPPING PARK

本コマンドでは、ライブラリーの自己シャットダウン動作を行います。
このコマンドでは、次の動作を実行します。
・メカ部を輸送固定位置に移動させる。
・各種メモリー情報（設定情報、使用回数、エラーログ）を不揮発メモリーにバックアップする。

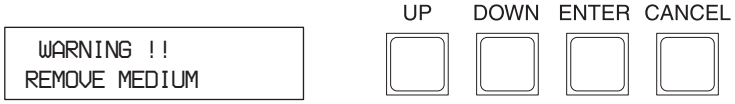
ご注意
本コマンドを実行する前に、必ずすべてのメディアを本機から取り出しておいてください。メディアを入れたまま輸送すると、本機の故障の原因となります。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。

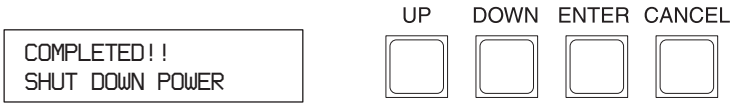


ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：　機能がありません。
［ENTER］ボタン：　　シャットダウン動作を実行します。
［CANCEL］ボタン：　　コマンドメニューに戻ります。

メディアがライブラリー内に存在すると、次の画面が表示されます。この場合は、［CANCEL］ボタンでコマンドメニューに戻り、EMPTY LIBRARY コマンドなどを使って、ライブラリー内のすべてのメディアを取り出してから、再度、本コマンドを実行してください。

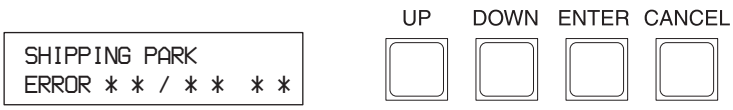


・本コマンドが正常終了した場合
次の画面が表示されます。



この後は、何もボタン操作を受け付けません。このままライブラリーの電源を切ってください。

・本コマンドが異常終了した場合
次の画面が表示されます。

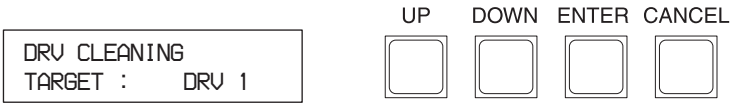


ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン：　　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　　コマンドメニューに戻ります。

DRV CLEANING

本コマンドでは、ライブラリー内のドライブのクリーニング動作を実行します。

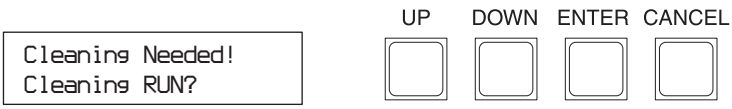
コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



画面の見かた
TARGET：クリーニングするドライブを表示します。(DRIVE 1 または DRIVE 2)

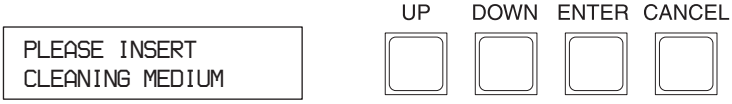
ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：　DRIVE 1 と DRIVE 2 を切り替えます。
［ENTER］ボタン：　　クリーニング動作を実行します。
［CANCEL］ボタン：　　コマンドメニューに戻ります。

ここで［ENTER］ボタンを押すと、次の画面に移行します。クリーニングが必要かどうか確認してください。
クリーニングが必要なときは、次の画面が表示されます。(クリーニングが不要なときは「Clean Not need」と表示されます。)



ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：　機能がありません。
［ENTER］ボタン：　　クリーニング動作を実行します。
［CANCEL］ボタン：　　コマンドメニューに戻ります。

クリーニングを実行する場合には、［ENTER］ボタンを押します。
次の画面が表示されたら、挿入 / 排出スロットからクリーニングカートリッジを挿入します。



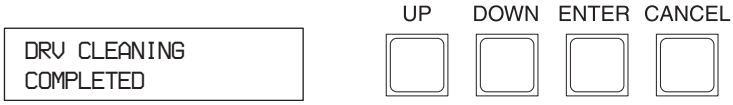
ボタン操作

［UP］、［DOWN］ボタン： 機能がありません。
［ENTER］ボタン： 機能がありません。
［CANCEL］ボタン： 挿入待ち動作をキャンセルし、コマンドメニューに戻ります。

ここでクリーニングカートリッジを挿入すると、自動的にクリーニング動作が行われます。クリーニングが終わると、挿入 / 排出スロットからクリーニングカートリッジが排出されますので、挿入 / 排出スロットから取り出してください。

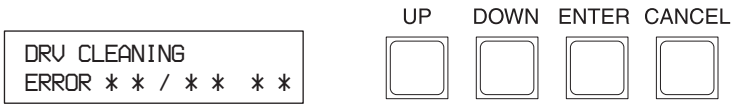
・本コマンドが正常終了した場合

次の画面が表示されます。



・本コマンドが異常終了した場合

次の画面が表示されます。

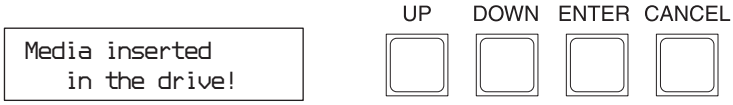


ボタン操作

［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン： 機能がありません。
［CANCEL］ボタン： コマンドメニューに戻ります。

・すでに対象ドライブに別のメディアが入っていて、異常終了した場合

次の画面が表示されます。

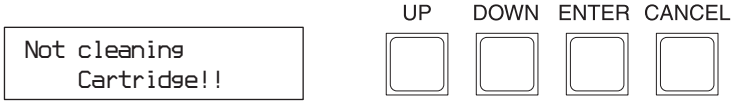


ボタン操作

［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン： 機能がありません。
［CANCEL］ボタン： コマンドメニューに戻ります。

・クリーニングカートリッジ以外のメディアを挿入し、異常終了した場合

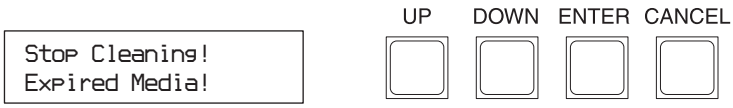
メディアを排出した後、次の画面が表示されます。



ボタン操作

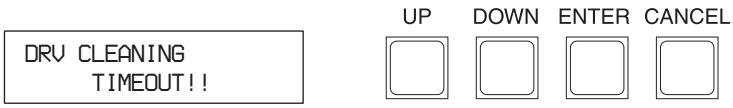
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン： 機能がありません。
［CANCEL］ボタン： コマンドメニューに戻ります。

・使用回数を超えているクリーニングカートリッジを挿入し、異常終了した場合
メディアを排出した後、次の画面が表示されます。



ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン：　　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　　コマンドメニューに戻ります。

・何らかの理由でタイムアウト（20 分）を起こし、異常終了した場合
メディアを排出した後、次の画面が表示されます。

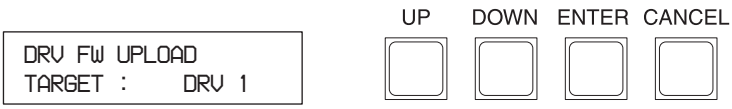


ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン：　　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　　コマンドメニューに戻ります。

DRV F/W UP

本コマンドでは、ライブラリー内のドライブのファームウェアのアップロード動作を行います。（ここでは、ファームウェアアップロード専用のメディアを使用します。）

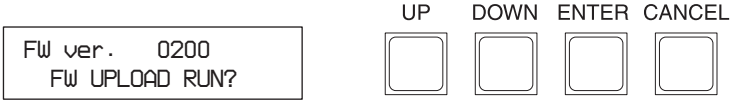
コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



画面の見かた
TARGET：ファームウェアをアップロードするドライブを表示します。（DRIVE 1 または DRIVE 2）

ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：　DRIVE 1 と DRIVE 2 を切り替えます。
［ENTER］ボタン：　　ファームウェアのアップロード動作を実行します。
［CANCEL］ボタン：　　コマンドメニューに戻ります。

ここで［ENTER］ボタンを押すと、次の画面が表示されます。

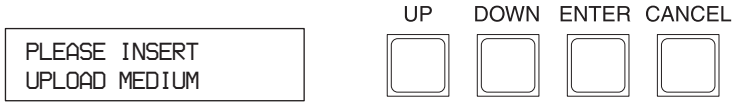


ボタン操作

［UP］、［DOWN］ボタン： 機能がありません。
［ENTER］ボタン： ファームウェアのアップロード動作を実行します。
［CANCEL］ボタン： コマンドメニューに戻ります。

現在のファームウェアのバージョンが画面に表示されています。ファームウェアのアップロードが必要な場合は、［ENTER］ボタンを押します。

次の画面が表示されたら、挿入 / 排出スロットからファームウェアアップロード用のメディアを挿入します。



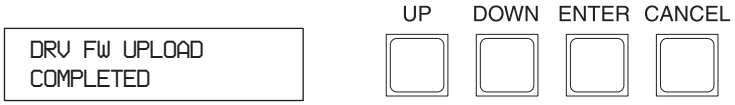
ボタン操作

［UP］、［DOWN］ボタン： 機能がありません。
［ENTER］ボタン： 機能がありません。
［CANCEL］ボタン： 挿入待ち動作をキャンセルし、コマンドメニューに戻ります。

ここでファームウェアアップロード用のメディアを挿入すると、自動的にファームウェアの更新動作が行われます。更新が終わると、挿入 / 排出スロットからファームウェアアップロード用のメディアが排出されますので、挿入 / 排出スロットから取り出してください。

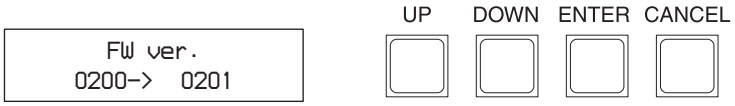
・本コマンドが正常終了した場合

次の画面が表示されます。



ボタン操作

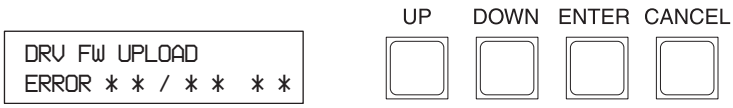
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン： 機能がありません。
［CANCEL］ボタン： 変更したファームウェアのバージョンを表示します。



ボタン操作

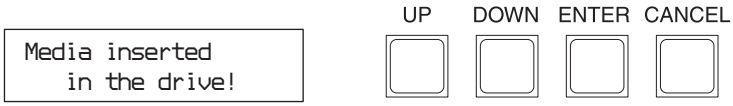
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン： 機能がありません。
［CANCEL］ボタン： コマンドメニューに戻ります。

・本コマンドが異常終了した場合
次の画面が表示されます。



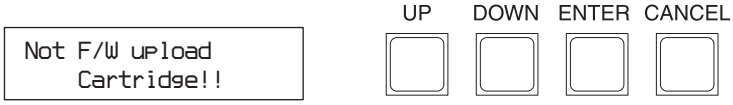
ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン：　　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　　コマンドメニューに戻ります。

・すでに対象ドライブに別のメディアが入っていて、異常終了した場合
次の画面が表示されます。



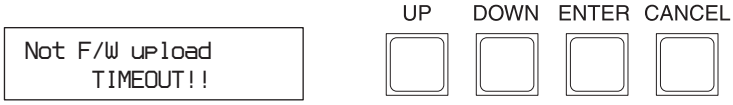
ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン：　　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　　コマンドメニューに戻ります。

・アップロード用メディアを挿入したが、読み取りできなかった場合や、アップロード用メディア以外のメディアを挿入した場合
メディアを排出した後、次の画面が表示されます。



ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン：　　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　　コマンドメニューに戻ります。

・何らかの理由でタイムアウト（5 分）を起こし、異常終了した場合
メディアを排出した後、次の画面が表示されます。

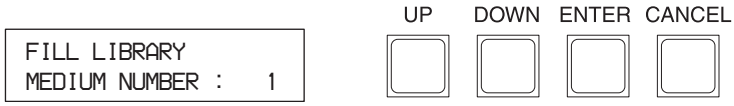


ボタン操作
［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン：　　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　　コマンドメニューに戻ります。

FILL LIBRARY

本コマンドでは、指定した巻数のメディアを入出力エレメントから連続して格納できます。連続挿入するメディアは、番号の小さい空き格納エレメントから詰められます。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



画面の見かた

MEDIUM NUMBER： 挿入するメディアの巻数を表示します。(最大 20 巻)

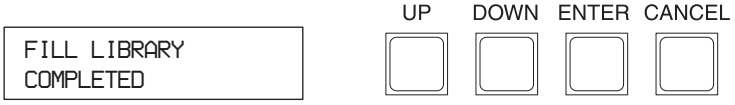
ボタン操作

［UP］ボタン： 挿入するメディアを 1 巻増やします。
［DOWN］ボタン： 挿入するメディアを 1 巻減らします。
［ENTER］ボタン： メディアの連続挿入動作を実行します。
［CANCEL］ボタン： コマンドメニューに戻ります。

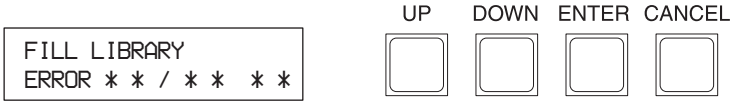
メモ

途中で連続挿入動作を中止するときは、連続挿入動作中に［CANCEL］ボタンを押し続けます。

- **本コマンドが正常終了した場合**
  次の画面が表示されます。



- **本コマンドが異常終了した場合**
  次の画面が表示されます。



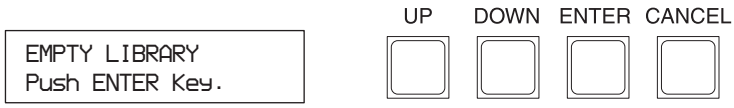
ボタン操作

［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン： 機能がありません。
［CANCEL］ボタン： コマンドメニューに戻ります。

EMPTY LIBRARY

本コマンドでは、本機内のすべてのメディアを連続して入出力エレメントから排出できます。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



ボタン操作

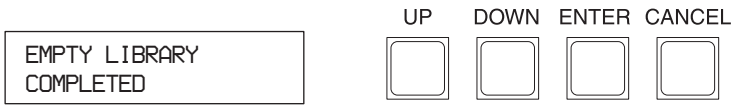
［UP］、［DOWN］ボタン：　機能がありません。
［ENTER］ボタン：　メディアの連続排出動作を実行します。
［CANCEL］ボタン：　コマンドメニューに戻ります。

メモ

途中で連続排出動作を中止するときは、連続排出動作中に［CANCEL］ボタンを押し続けます。

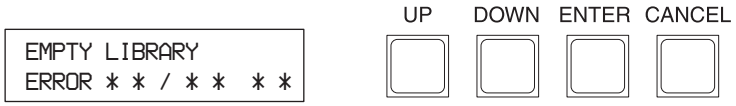
・本コマンドが正常終了した場合

次の画面が表示されます。



・本コマンドが異常終了した場合

次の画面が表示されます。



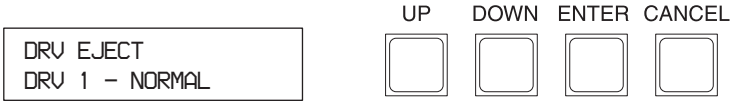
ボタン操作

［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。
［ENTER］ボタン：　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　コマンドメニューに戻ります。

DRV EJECT

本コマンドでは、本機の内蔵ドライブの排出動作を実行します。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



画面の見かた

DRV1-NORMAL： ドライブ 1 に対して、通常のイジェクトモードで実行することを示します。

DRV1-EMERGENCY： ドライブ 1 に対して、強制のイジェクトモードで実行することを示します。

DRV2-NORMAL： ドライブ 2 に対して、通常のイジェクトモードで実行することを示します。

DRV2-EMERGENCY： ドライブ 2 に対して、強制のイジェクトモードで実行することを示します。

ボタン操作

［UP］ボタン： 次の選択モードを表示します。

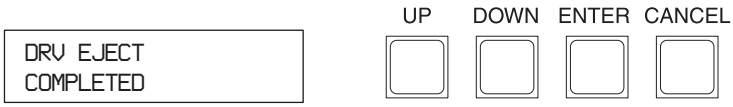
［DOWN］ボタン： 1 つ前の選択モードを表示します。

［ENTER］ボタン： 選択したドライブに対して、EJECT 動作を行います。

［CANCEL］ボタン： コマンドメニューに戻ります。

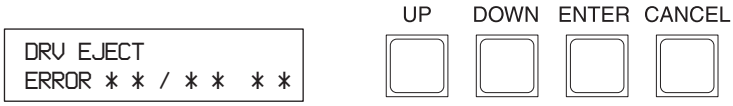
・本コマンドが正常終了した場合

次の画面が表示されます。



・本コマンドが異常終了した場合

次の画面が表示されます。



ボタン操作

［UP］、［DOWN］ボタン：機能がありません。

［ENTER］ボタン： 機能がありません。

［CANCEL］ボタン： コマンドメニューに戻ります。

このコマンド実行後、メディアはドライブから排出された状態に保持されています。MOVE MEDIUM コマンドなどで棚に移動するか、カートリッジ挿入 / 排出スロットから排出してください。

CONFIGURATION メニュー

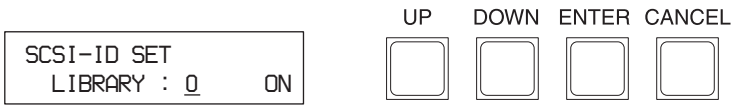
CONFIGURATION メニューには、以下のコマンドがあります。
・SCSI-ID SET （61 ページ）
・BARCODE SET （62 ページ）
・USER PASSWORD （62 ページ）
・PASSWORD MODE （63 ページ）
・DRV HOT SWAP （63 ページ）

SCSI-ID SET

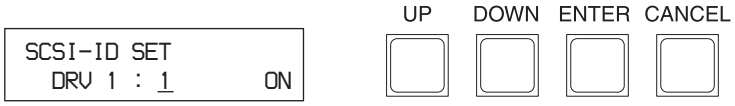
本コマンドでは、本機と内蔵されているドライブの SCSI ID の確認や変更、搭載ドライブの使用の有無を指定できます。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。

本機



内蔵ドライブ（DRIVE 1、DRIVE 2）



画面の見かた

下段：　SCSI 装置および SCSI ID、装置の使用状態を表示します。
　　LIBRARY：本機
　　DRV 1 ～ 2 :内蔵ドライブ番号
　　0 ～ 15：　SCSI ID 番号
　　ON：　このドライブを使用します。
　　OFF：　このドライブを使用しません。

ボタン操作

［UP］ボタン：　SCSI ID の位置にカーソルがある場合は、SCSI ID の値を 1 つ増やします。
ON/OFF の位置にカーソルがある場合は、ON/OFF を順に切り替えます。

［DOWN］ボタン：　SCSI ID の位置にカーソルがある場合は、SCSI ID の値を 1 つ減らします。
ON/OFF の位置にカーソルがある場合は、ON/OFF を順に切り替えます。

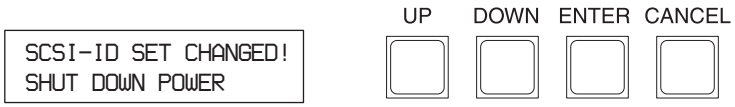
［ENTER］ボタン：　カーソルを移動します。
LIBRARY ID → DRV1 ID → DRV1 ON/OFF → DRV2 ID → DRV2 ON/OFF の順に移動します。
DRV2 ON/OFF のカーソル位置で［ENTER］ボタンを押した場合のみ、変更した ID が記憶されます。

［CANCEL］ボタン：　LIBRARY ID の位置にカーソルがある場合は、コマンドメニューに戻ります。
その他の場合は、カーソル位置を 1 つ前に戻します。

ご注意

SCSI ID は重複しないように設定してください。重複している SCSI ID を設定した場合は、conflict メッセージが表示され、設定がキャンセルされます。

SCSI ID を変更したら、［ENTER］ボタンを押します。
次の画面が表示されます。

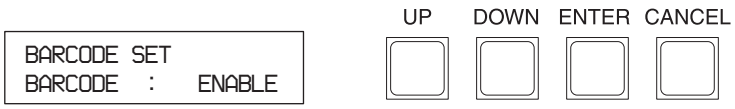


設定した SCSI ID は、次回電源を入れたときから有効になります。
SCSI ID やドライブの ON/OFF 設定の変更を行った場合は、いったん本機の電源を切ってから、再度電源を入れて再起動してください。

BARCODE SET

本コマンドでは、本機のバーコードリーダーの有効、無効を設定できます。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



画面の見かた

下段： バーコードリーダーの設定状態を表示します。
ENABLE（有効）、DISABLE（無効）

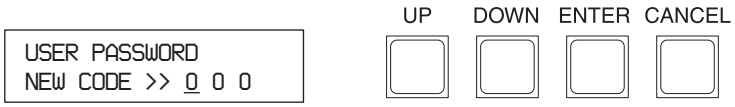
ボタン操作

［UP］、［DOWN］ボタン： ENABLE/DISABLE を切り替えます。
［ENTER］ボタン： 設定が確定します。
［CANCEL］ボタン： コマンドメニューに戻ります。

USER PASSWORD

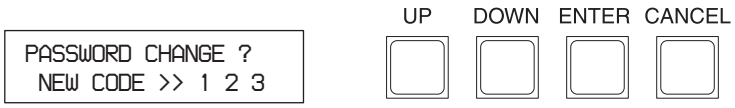
本コマンドでは、USER モードのパスワードを変更できます。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



ボタン操作

［UP］ボタン： 数値を 1 つ増やします。（0 ～ 9 の範囲）
［DOWN］ボタン： 数値を 1 つ減らします。（0 ～ 9 の範囲）
［ENTER］ボタン： カーソルを進めます。（一番右の桁にカーソルがある場合は、次の画面に進みます。）
［CANCEL］ボタン： カーソルを戻します。（一番左の桁にカーソルがある場合には、コマンドメニューに戻ります。）



ボタン操作

［UP］ボタン：　　機能がありません。
［DOWN］ボタン：　機能がありません。
［ENTER］ボタン：　新しいパスワードの変更が確定します。
［CANCEL］ボタン：　コマンドメニューに戻ります。

変更したパスワードは、次の USER モードのログイン時から有効です。

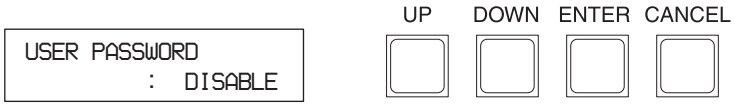
ご注意

登録したパスワードを忘れないように厳重に管理してください。
工場出荷時は、次のように設定されています。
・USER モードのパスワード要求：無効
・USER モードのパスワード：000

PASSWORD MODE

本コマンドでは、USER モードにログインするときのパスワード要求の有無を設定できます。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



画面の見かた

下段：　パスワード要求有無の設定状態を表示します。
　　ENABLE（パスワードを確認する）、DISABLE（パスワードなし）

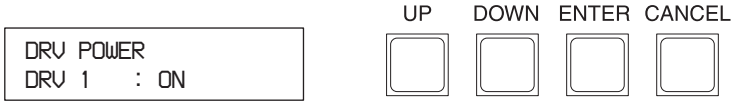
ボタン操作

［UP］、［DOWN］ボタン：　ENABLE/DISABLE を切り替えます。
［ENTER］ボタン：　　設定が確定します。
［CANCEL］ボタン：　　コマンドメニューに戻ります。

DRV HOT SWAP

本コマンドでは、ライブラリー内部のドライブの電源を遮断 / 供給できます。

コマンドメニューが表示されている状態で［ENTER］ボタンを押すと、画面表示が次のように変わり、コマンド実行モードになります。



画面の見かた

DRV1：ON：　ドライブ 1 の電源を供給します。
DRV1：OFF：　ドライブ 1 の電源を遮断します。
DRV2：ON：　ドライブ 2 の電源を供給します。
DRV2：OFF：　ドライブ 2 の電源を遮断します。

ボタン操作

［UP］ボタン：　　次の選択指定に変更します。
［DOWN］ボタン：　1 つ前の選択指定に変更します。
［ENTER］ボタン：　選択したドライブの電源を遮断 / 供給します。
［CANCEL］ボタン：　コマンドメニューに戻ります。

ご注意

本操作では、ドライブの使用状況に関わらず、選択したドライブの電源が遮断されます。必ずドライブへのアクセス（Read/Write など）が停止していることを確認してから実行してください。

第5章 ON LINE モードの表示について

概要

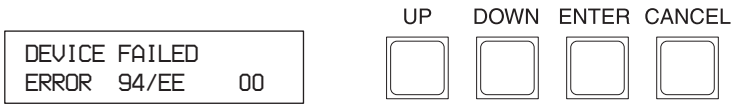
本章では、ON LINE モードのときに、ライブラリーやドライブでエラーや WARNING が発生した場合の液晶ディスプレイに表示されるメッセージや LED の状態、操作方法について説明します。

ON LINE モードでは、次の場合にエラーメッセージや WARNING メッセージが表示され、LED が点灯または点滅します。
・ ライブラリーにエラーが発生した場合
・ ドライブにエラーが発生した場合
・ ドライブとの ACI 通信が不可能になった場合
・ Drive Cleaning などの WARNING が発生している場合

メモ
ライブラリー、ドライブのいずれかにエラーが発生した場合は、WARNING よりも優先して表示されます。

ライブラリーでエラーが発生した場合の表示

ライブラリーでエラーが発生すると、以下のようなメッセージが表示され、ERROR/WARNING LED が点灯します。



画面の見かた

上段： ライブラリーでエラーが発生したことを示します。

下段： エラーの内容が表示されます。(AA/BB CC)

AA：Additional Sense Code（SCSI の ASC と同一です）

BB：Additional Sense Code Qualifier（SCSI の ASCQ と同一です）

CC：Additional Error Code（デバッグ用の値です）

ボタン操作

［UP］ボタン： USER モードへの切り替えの確認を行います。

［DOWN］ボタン： 機能がありません。

［ENTER］ボタン： 機能がありません。

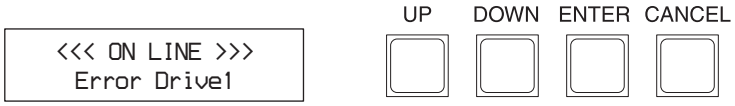
［CANCEL］ボタン： 機能がありません。

メモ

エラーコードの内容および対処方法については、「その他」の「エラーコード一覧」（82 ページ）を参照してください。

ドライブでエラーが発生した場合の表示

ドライブでエラーが発生すると、以下のようなメッセージが表示され、ERROR/WARNING LED が点灯します。



画面の見かた

下段： エラーが発生しているドライブが表示されます。

2 台ともエラーが発生している場合は、「Error Drive1&2」と表示されます。

ボタン操作

［UP］ボタン： USER モードへの切り替えの確認を行います。

［DOWN］ボタン： 機能がありません。

［ENTER］ボタン： 機能がありません。

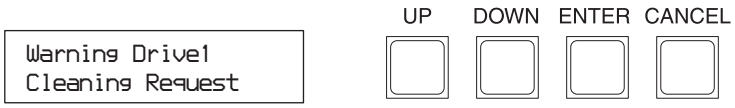
［CANCEL］ボタン： 機能がありません。

メモ

このエラーが表示されたときは、ドライブの使用を停止し、ドライブの状況を確認してください。

ドライブで WARNING が発生した場合の表示

ドライブ側で WARNING が発生すると、以下のようなメッセージが表示され、ERROR/WARNING LED が点滅します。



画面の見かた

上段： WARNING が発生しているドライブが表示されます。
２台とも WARNING が発生している場合は、「Warning Drive1&2」と表示されます。

下段： WARNING の内容が表示されます。

ボタン操作

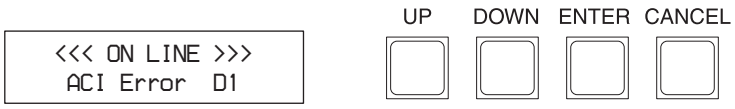
［UP］ボタン： USER モードへの切り替えの確認を行います。
［DOWN］ボタン： 機能がありません。
［ENTER］ボタン： 機能がありません。
［CANCEL］ボタン： 機能がありません。

メモ

「Cleaning Request」が表示されときは、ドライブのヘッドクリーニングが必要です。クリーニングカートリッジを用意して、クリーニングを行ってください。詳しくは、第４章の「DRV CLEANING」（53 ページ）を参照してください。

ドライブとの ACI 通信が不可能になった場合の表示

ドライブとライブラリーとの ACI 通信が不可能になると、以下のようなメッセージが表示され、ERROR/WARNING LED が点灯します。



画面の見かた

下段： エラーが発生しているドライブが表示されます。
2 台とも ACI エラーが発生している場合は、定期的に表示が切り替わります。

ボタン操作

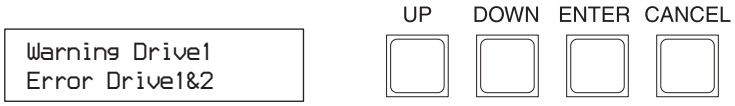
［UP］ボタン： USER モードへの切り替えの確認を行います。
［DOWN］ボタン： 機能がありません。
［ENTER］ボタン： 機能がありません。
［CANCEL］ボタン： 機能がありません。

メモ

- ACI のエラーは、ドライブのエラー（Read/Write など）や WARNING よりも優先して表示されます。
- このエラーが発生した場合は、ドライブの電源または通信線の異常などが考えられます。接続を確認してください。

ドライブで WARNING とエラーが重なった場合の表示

ドライブで WARNING とエラーが同時に発生すると、以下のようなメッセージが表示され、ERROR/WARNING LED が点灯します。
ドライブ側のエラーは、優先順位の高い方から順に ACI ERROR ＞ DRIVE ERROR ＞ WARNING となります。



画面の見かた

上段：　WARNING が発生しているドライブが表示されます。
下段：　エラーが発生しているドライブが表示されます。

* 上記の表示は、ドライブ 1 ではエラーと WARNING が、ドライブ 2 ではエラーのみが発生していることを示しています。

ボタン操作

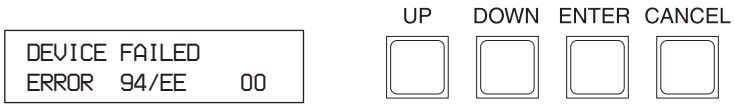
［UP］ボタン：　USER モードへの切り替えの確認を行います。
［DOWN］ボタン：　機能がありません。
［ENTER］ボタン：　機能がありません。
［CANCEL］ボタン：　機能がありません。

メモ

エラーと WARNING が重複して表示された場合は、解除された順番に表示が消去されます。（表示が切り替わるまで数秒かかります。）

ライブラリーのエラーとドライブのエラー（WARNING）が重なった場合の表示

ドライブでエラーなどが発生しているときでも、ライブラリーでエラーが発生した場合は、ライブラリーのエラーが優先して表示されます。他のエラーと同様に、この場合も ERROR/WARNING LED が点灯します。



画面の見かた

上段： ライブラリーでエラーが発生していることを示します。
下段： エラーの内容が表示されます。(AA/BB CC)
AA：Additional Sense Code（SCSI の ASC と同一です）
BB：Additional Sense Code Qualifier（SCSI の ASCQ と同一です）
CC：Additional Error Code（デバッグ用の値です）

ボタン操作

［UP］ボタン： USER モードへの切り替えの確認を行います。
［DOWN］ボタン： 機能がありません。
［ENTER］ボタン： 機能がありません。
［CANCEL］ボタン： 機能がありません。

メモ

ライブラリーのエラーが解除されない限りは、ドライブのエラー（WARNING）は表示されません。ライブラリーのエラーが解除されると、ドライブのエラー（WARNING）表示に切り替わります。

第6章 カートリッジについて

本機で使用できるカートリッジ

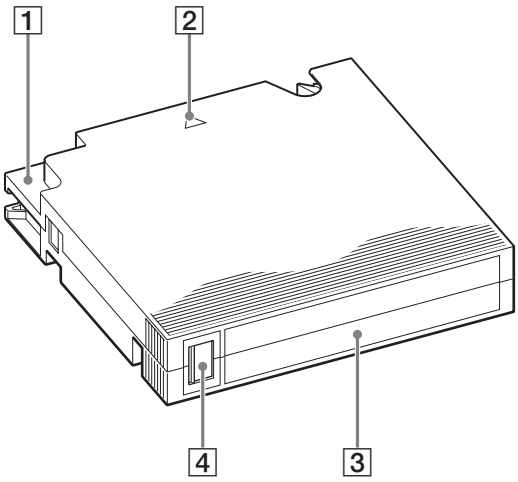
本機では、次のカートリッジのみ使用できます。
・S-AIT データカートリッジ
・S-AIT クリーニングカートリッジ

本機では、必ず上記のカートリッジを使用してください。LTO Ultrium や SDLT、DLT など、他のフォーマットのカートリッジは使用しないでください。

データカートリッジについて

S-AIT データカートリッジは、1/2 インチ幅の AME（Advanced Metal Evaporated：蒸着）テープを採用しています。
テープの記録方法は、テープ記録の高密度化と高転送レート化に優れたヘリカルスキャン方式を採用しています。
また、データカートリッジに内蔵されているリモート MIC（容量 8KB）を使って、アクセス性を向上させています。

各部の名称と機能

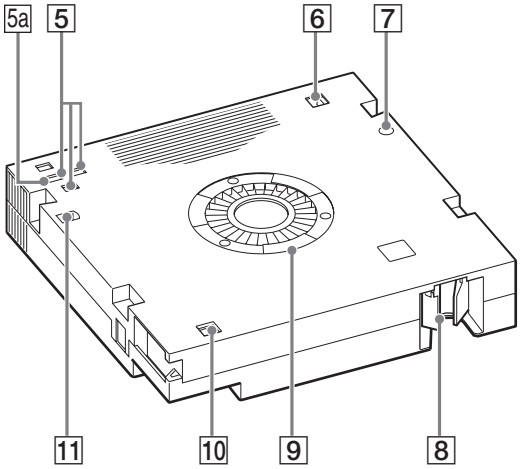


1 挿入ガイド
カートリッジが正しい向きに挿入されるようにするためのガイドです。また、本カートリッジを違う種類のドライブに挿入できないようにする役割もあります。

2 挿入方向指示
△マークの方向にカートリッジを挿入します。

3 ラベル貼り付け位置
ラベルを貼る位置です。ラベルは枠内に平行に貼ってください。はみ出していると、カートリッジをロードするときに引っかかって、トラブルが発生する恐れがあります。

4 誤消去防止用ツメ
右にスライドさせると、データカートリッジの内容が保護されます。
タブの色は、SONY 製データカートリッジ SAIT1-500 はオレンジ、クリーニングカートリッジ SAIT1-CL は青です。「テープの書き込み保護」（74 ページ）を参照してください。



5 カートリッジ識別孔

S-AIT テープドライブがカートリッジの種類を識別するための孔です。
データカートリッジはすべての孔がふさがれています。クリーニングカートリッジは 5a の孔だけ開いています。

ご注意

カートリッジ識別孔を開けないでください。カートリッジの種類が正しく識別されなくなります。

6 リールロック

S-AIT テープドライブにセットされていないときに、テープがずれないようにするためのロックです。カートリッジを本機にセットすると、自動的にリールロックが解除されます。

ご注意

リールロックをふさがないでください。カートリッジのロードに問題が起きる恐れがあります。

7 カートリッジ位置決め穴

S-AIT テープドライブ内の正しい位置にカートリッジをセットするために使用されます。

ご注意

カートリッジ位置決め穴をふさがないでください。カートリッジのロードに問題が起きる恐れがあります。

8 リーダーブロック

テープが取り付けられています。カートリッジを S-AIT テープドライブに挿入すると、カートリッジからリーダーブロックが引き出されて、ユニット内の取り外し不能のテープ巻き取りリールにロードされ、ドラムに巻き付きます。

ご注意

リーダーブロックをカートリッジから引き出さないでください。カートリッジのロードに問題が起きる恐れがあります。

9 ハブ（カートリッジのハブ）
カートリッジ内のリールの回転に使用されます。

ご注意
ハブをふさがないでください。カートリッジのロードに問題が起きる恐れがあります。

10 リールロック
S-AIT テープドライブにセットされていないときに、テープがずれないようにするためのロックです。カートリッジを本機にセットすると、自動的にリールロックが解除されます。

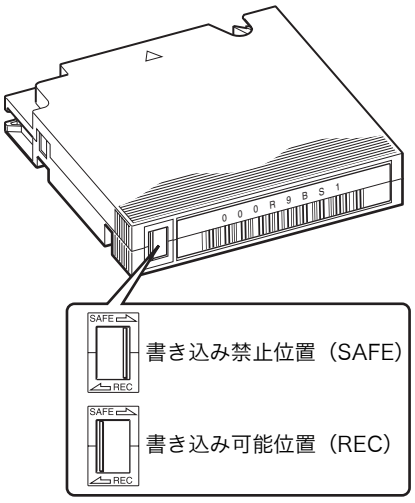
ご注意
リールロックをふさがないでください。カートリッジのロードに問題が起きる恐れがあります。

11 カートリッジ位置決め穴
S-AIT テープドライブ内の正しい位置にカートリッジをセットするために使用されます。

ご注意
カートリッジ位置決め穴をふさがないでください。カートリッジのロードに問題が起きる恐れがあります。

テープの書き込み保護

ツメを図の方向にスライドさせることによって、テープへの書き込みを保護できます。この状態では、テープからデータを読み出すことはできますが、書き込みを行うことはできません。



クリーニングカートリッジ

本機のドライブヘッドのクリーニングには、SONY S-AIT クリーニングカートリッジをお使いください。ヘッドのクリーニングが必要になると、液晶ディスプレイに「Warning Drive Cleaning Request」が表示され、ERROR/WARNING LED が点滅します。
クリーニング方法については、第 4 章の「DRV CLEANING」（53 ページ）を参照してください。

カートリッジの取り扱いについて

カートリッジを取り扱うときや保管するときは、以下のことに注意してください。

取り扱い上のご注意

- カートリッジを使用する前に、少なくとも 24 時間は使用環境になじませてから使用してください。
- 使用する前に、カートリッジが損傷していないか、異物などが付着していないか確認してください。
- 損傷しているカートリッジは使用しないでください。本機の故障の原因となります。
- カートリッジからリーダーブロックやテープを引き出さないでください。カートリッジ内のブレーキ機構やテープを損傷させる恐れがあります。また、カートリッジの外側に出ているテープに触ると、テープの表面やへりの部分に損傷を与える恐れがあります。
- カートリッジに激しい振動を与えたり、落としたりしないでください。
- カートリッジは、工場出荷時に精密に調整されていますので、分解しないでください。
- ラベルは必ず所定の位置に貼ってください。
- カートリッジのツメは、不要なデータを誤って書き込まないためのものです。書き込みの必要のないカートリッジは、書き込みできない状態にしておいてください。「テープの書き込み保護」（74 ページ）を参照してください。
- 温度差の激しい場所や湿気の多いところでは、結露により、書き込み、読み取りができなくなることがあります。
- 書き込み、読み取りの必要がないときは、不必要にカートリッジを本機に出し入れしないでください。
- 本体を輸送するときは、必ずカートリッジを取り出してください。
- カートリッジを廃棄する際は、各自治体の条例・規則に従ってください。詳しくは、各自治体にお問い合わせください。

保管上のご注意

・カートリッジを使用していないときは、必ず付属のケースに入れて保管してください。
・適切な環境でカートリッジを保管してください。
カートリッジのパッケージに記載されている保管温度、その他の周囲条件に従って保管してください。また、保管中に温度や湿度が変化しないようにしてください。直射日光の当たるところ、暖房機の近く、湿気の多いところには保管しないでください。自動車のダッシュボードやトレーには絶対に置かないでください。
・カートリッジは縦にして保管してください。
・強い磁場を発生する機材の近くに保管しないでください。データが消失する可能性があります。
・ほこりやちりの少ない場所に保管してください。
ほこりやちりの発生する原因を取り除いてください。保管場所近くで喫煙、飲食をしないでください。また、トナーや紙粉を排出する恐れのあるコピーやプリンターの近くにカートリッジを保管しないでください。
・カートリッジを保管するときは、誤消去防止用ツメを書き込み不可の位置にすることをおすすめします。
・本機からカートリッジを取り出したときは、できるだけ早く適切な場所に保管してください。
温度や湿度の変化、ほこりやちりによる汚損、手指などに触れることによるテープの損傷をできるだけ防ぐようにしてください。
・再利用する予定のテープカートリッジは消磁しないでください。消磁すると、テープが使用できなくなる恐れがあります。

カートリッジの使用・保管・輸送環境

使用環境

カートリッジを使用する前に、少なくとも 24 時間は使用環境になじませてから使用してください。
温度 10 ～ 35 ℃
湿度 20 ～ 80%（結露のないこと）
最大湿球温度 26 ℃

保管環境

温度 16 ～ 32 ℃
湿度 20 ～ 60%（結露のないこと）
最大湿球温度 26 ℃

輸送環境（梱包状態）

温度 –23 ～ 48 ℃
湿度 5 ～ 80%（結露のないこと）
最大湿球温度 26 ℃

その他

パスワードを忘れたときは

USER モードのパスワードを忘れると、パスワードを要求される設定や操作ができなくなります。万一、パスワードを忘れてしまったときには、サービス・サポート窓口にご相談ください。

故障かな？と思ったら

サービス・サポート窓口にご相談になる前に下記の項目をもう 1 度チェックしてみてください。それでも具合が悪いときは、サービス・サポート窓口にご相談ください。

本機が起動しない（POWER インジケーターが点灯しない）または、正しく動作しない

- 電源スイッチがオンになっているか確認してください。
- 電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- 電源ケーブルがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
- ターミネーターが正しく接続されているか確認してください。
- 本機とホストコンピューターが SCSI ケーブルで正しく接続されているか確認してください。いったん SCSI ケーブルを抜いてから接続し直し、両端のネジをしっかりと締めてください。
- ホストコンピューターに電源が入っているか確認してください。
- 電源を入れ直したときは、10 秒間待ってから電源を入れていたか確認してください。
- ネットワークケーブルが接続されている場合は、取り外してみてください。
- 本機の液晶ディスプレイにエラーコードが表示されていないか確認してください。エラーコードについては、「エラーコード一覧」（82 ページ）を参照してください。
- 本機両側面の輸送ロックを取り外したか確認してください。バーコードラベルを貼ったのに、バーコード情報が取得できない場合は、右側面の輸送ロックを取り外していない可能性があります。

本機とホストコンピューターが通信できない

・ホストコンピューターに電源が入っているか確認してください。
・ホストコンピューターに SCSI アダプターカードが正しく取り付けられているか確認してください。
・それぞれの機器に割り当てた SCSI ID が重複していないか確認してください。1 つの SCSI バスに、重複する SCSI ID を設定することはできません。
・本機とホストコンピューターが SCSI ケーブルで正しく接続されているか確認してください。いったん SCSI ケーブルを抜いてから接続し直し、両端のネジをしっかりと締めてください。
・ターミネーターが正しく接続されているか確認してください。
・コネクターのピンが破損していないか確認してください。ターミネーターと SCSI ケーブルを取り外し、各コネクターのピンが曲がったり、抜けたりしていないかなどを確認してください。必要に応じて、新しいケーブルと交換してください。
・SCSI バス上に接続されている SCSI デバイスの台数を確認してください。接続可能な SCSI デバイスの台数は、SCSI ホストアダプターカードを含め 16 台です。
・接続している SCSI 機器がすべて LVD デバイスであるか確認してください。本機は LVD デバイスです。本機に HVD デバイスを接続しないでください。
・SCSI ケーブルの長さを確認してください。LVD SCSI では、ホストコンピューターと SCSI バス上の最後の機器とをつなぐ SCSI ケーブルの全長（内部および外部ケーブルのすべての長さを含む）が、12 m 未満になるようにしてください。本機の内部ケーブルの長さは 2 m です。
・本機の電源を入れた後、液晶ディスプレイに「<<<ON LINE>>>」と表示されてから、ホストコンピューターの電源を入れたか確認してください。本機の電源を入れてからホストコンピューターの電源を入れるまでの時間が短いと、SCSI ID が正しく認識されないことがあります。

アプリケーションソフトウェアで本機が認識されない

・使用するアプリケーションソフトウェアが本機に対応していることを確認してください。本機で使用できるアプリケーションソフトウェアや対応しているオペレーティングシステムについては、お買い上げ店にお問い合わせください。
・ホストコンピューターにアプリケーションソフトウェアが正しくインストールされ、正しく設定されているか確認してください。
・アプリケーションソフトウェアによっては、本機をロードするためにデバイスドライバーが必要な場合があります。お使いのオペレーティングシステムに合わせて、デバイスドライバーをインストールしてください。デバイスドライバーについては、本取扱説明書をダウンロードしたソニーのホームページを参照してください。

アプリケーションソフトウェアやライブラリーは正しく動作するが、データの読み書きができない

・カートリッジの誤消去防止用ツメが書き込み可能の状態になっているか確認してください。
・必ず S-AIT カートリッジを使用してください。
・カートリッジを長時間使用していたり、使用頻度が高い場合は、新しいカートリッジに交換してください。
・カートリッジが破損していないか確認してください。カートリッジの詳細については、第 6 章「カートリッジについて」（71 ページ）を参照してください。
・ドライブのヘッドクリーニングを行ってみてください。操作については、第 4 章の「DRV CLEANING」（53 ページ）を参照してください。

カートリッジが取り出せない

・第 4 章の「EXPORT MEDIUM」（48 ページ）や「MAGAZINE XCHG」（50 ページ）を実行してください。
・それでも取り出せないときは、以下を試してみてください。
  - 固定スロットからカートリッジを取り出す場合：
    「手動でカートリッジを取り出す場合」を参照してください。
  - ドライブからカートリッジを取り出す場合：
    第 4 章の「DRV EJECT」（59 ページ）を実行してください。この後、「EXPORT MEDIUM」などを実行してください。それでも取り出せない場合は、「手動でカートリッジを取り出す場合」を参照してください。
  - 手動でカートリッジを取り出す場合：
    「MAGAZINE XCHG」（50 ページ）を実行し、フロントドアを開け、その状態で電源を切ってください。その後、マガジンを取り出し、ドライブのカートリッジ挿入口や固定スロットから手動でカートリッジを取り出します。カートリッジを取り出したら、マガジンを戻し、フロントドアを閉めます。その後、電源をオンにしてください。

  カートリッジを手動で取り出した場合には、必ず USER モードの「OPERATION」－「CTG INVENTORY」コマンドを実行し、その後アプリケーションソフトウェアによるイニシャライズを行ってください。
  ライブラリーのカートリッジのインベントリー情報が更新されず、本機の故障の原因となります。
  また、アプリケーションソフトウェアからメディアおよび格納エレメントアドレス情報を管理している場合は、アプリケーションソフトウェアによっては、ライブラリー内部の格納エレメントアドレス情報と不一致となり、システムが正常に動作しない場合があります。

ご注意

マガジンを取り出した場合、絶対に電源を入れた状態で内部に手を入れないでください。マガジンより奥に手を入れるとはさまれ、けがの原因となる可能性があります。

本機を輸送するときには

移転や修理などで本機を輸送するときには必ず次のことを行ってください。

1 本機にセットされているカートリッジをすべて取り出す。

ご注意

- 操作ボタンの操作でカートリッジが取り出せないときは、本章の「故障かな？と思ったら」の「カートリッジが取り出せない」（79 ページ）を参照し、カートリッジを取り出してください。
- カートリッジを本機内に設置したまま輸送すると、本機の故障の原因となります。

2 USER モードの「SHIPPING PARK」を実行し、ライブラリーの自己シャットダウン動作を行う。

ご注意

この操作を実行しないと、本機内部の機構部が所定の位置に移動できず、輸送ロックを取り付けることができなくなります。

3 電源を切る。

本機背面の電源スイッチを押して、電源を切ります。

4 ケーブル類を取り外す。

電源ケーブル、SCSI ケーブル、ターミネーター、ネットワークケーブルなど、すべてのケーブルを取り外してください。

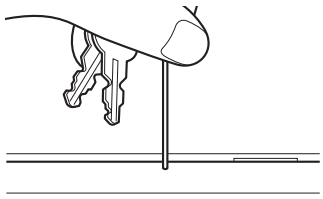
5 梱包する。

第 2 章の「開梱する」（16 ページ）の手順を逆から行ってください。輸送ロックは必ず取り付けてください。取り付けないで輸送すると、本機の故障の原因となります。

フロントドアリリースピンを使って、フロントドアを開けるには

電源を切った状態で、本機のフロントドアを開ける場合には、付属のフロントドアリリースピンを使用します。

1 フロントドアリリースピンをフロントドアのピン挿入口にさしこむ。



フロントドアの開閉ロックが解除されます。

2 フロントドア両側面のくぼみをつかみ、フロントドアを開ける。

エラーコード一覧

本機でエラーが発生すると、ERROR/WARNING LED がオレンジ色に点灯します。エラーが発生した場合は、液晶ディスプレイに表示されているエラーコードを確認し、以下の表に従って復旧作業を行ってください。その後、いったん電源を切り、再度電源を入れてください。再度電源を入れたときにイニシャライズ動作をしない場合や、イニシャライズ動作後もエラーが発生する場合は、サービス・サポート窓口にご連絡ください。

ERROR CODE		DESCRIPTION	SENSE KEY	復旧作業
ASC	ASCQ			
00	00	NO ADDITIONAL SENSE INFORMATION 報告すべきセンスキーがありません。	NO SENSE	
02	00	NO SEEK COMPLETE 搬送エレメントが目的位置に到達できませんでした。(移動タイムアウトです。)	HARDWARE ERROR	サービス・サポート窓口にご連絡ください。
04	01	LOGICAL UNIT IS IN PROCESS OF BECOMING READY 装置を準備中です。(メカが動作しています。)	NOT READY	
04	80	NOT READY, OPERATOR USING FRONT PANEL ユーザーが操作パネルを使用中です。	NOT READY	
15	01	MECHANICAL POSITIONING ERROR 搬送エレメントの上下位置検索エラーです。	HARDWARE ERROR	サービス・サポート窓口にご連絡ください。
15	80	MECHANICAL POSITIONING LIMIT ERROR 搬送エレメントの下限位置リミットを検出しました。	HARDWARE ERROR	サービス・サポート窓口にご連絡ください。
15	81	MECHANICAL POSITIONING UNKNOWN ERROR 搬送エレメントの上下位置エラーです。	HARDWARE ERROR	本機左側面の輸送ロックを取り外していない可能性があります。確認してみてください。
1A	00	PARAMETER LIST LENGTH ERROR イニシエーターが発行したデータ書き込み系コマンド中、不適当なパラメータリスト長を検出しました。	ILLEGAL REQUEST	
20	00	INVALID COMMAND OPERATION CODE イニシエーターからサポートしていないオペレーションコードのコマンドが発行されたのを検出しました。	ILLEGAL REQUEST	
21	01	INVALID ELEMENT ADDRESS イニシエーターが発行したコマンド中、不適当なエレメントアドレスを検出しました。	ILLEGAL REQUEST	
24	00	INVALID FIELD IN CDB イニシエーターが発行したコマンド中、不適当なコマンドフィールドを検出しました。	ILLEGAL REQUEST	
25	00	LOGICAL UNIT NOT SUPPORTED 確認メッセージ゙内または CDB 内で、サポートしていない LUN を検出しました。	ILLEGAL REQUEST	
26	00	INVALID FIELD IN PARAMETER LIST パラメータリスト内に無効パラメータを検出しました。	ILLEGAL REQUEST	
26	01	PARAMETER NOT SUPPORTED イニシエーターが不適当なページコードを発行したのを検出しました。	ILLEGAL REQUEST	

ERROR CODE		DESCRIPTION	SENSE KEY	復旧作業
ASC	ASCQ			
26	02	PARAMETER VALUE INVALID イニシエーターが不適当なパラメータ値を発行したのを検出しました。	ILLEGAL REQUEST	
29	00	POWER ON, RESET, OR BUS DEVICE RESET OCCURRED 電源投入、またはイニシエーターによりライブラリーがリセットされました。	UNIT ATTENTION	
2A	90	CARTRIDGE POSITION CHANGE BY PANEL OPERATION パネル操作により、カートリッジの状態が変更された可能性があります。	UNIT ATTENTION	カートリッジ情報不一致の可能性があります。 CTG INVENTORY を実行してください。
3B	0D	MEDIUM DESTINATION ELEMENT FULL 移動先に他のカートリッジがあるエレメントが指定されているのを検出しました。	ILLEGAL REQUEST	カートリッジがターゲットエレメント（移動先）に存在します。カートリッジ情報を確認の上、正しいコマンドを発行してください。
3B	0E	MEDIUM SOURCE ELEMENT EMPTY 移動元に、カートリッジのないエレメントが指定されているのを検出しました。	ILLEGAL REQUEST	カートリッジがソースエレメント（移動元）にありません。カートリッジ情報を確認の上、正しいコマンドを発行してください。
43	00	MESSAGE ERROR イニシエーターから不適当なメッセージを送られ、コマンドを中断しました。	ABORTED COMMAND	SCSI エラーです。 ターミネーターと SCSI ケーブルをチェックしてください。
44	00	INTERNAL TARGET FAILURE (INCLUDING DRIVE ACI ERROR) ターゲットの内部通信異常が検出されました。	HARDWARE ERROR	SCSI エラーです。 ターミネーターと SCSI ケーブルをチェックしてください。
45	00	SELECT OR RESELECT FAILURE リセレクション時に、イニシエーターを再選択できませんでした。	HARDWARE ERROR	SCSI エラーです。 ターミネーターと SCSI ケーブルをチェックしてください。
47	00	SCSI PARITY ERROR SCSI バス上のパリティエラーを検出しました。	ABORTED COMMAND	SCSI エラーです。 ターミネーターと SCSI ケーブルをチェックしてください。
4A	00	COMMAND PHASE ERROR コマンドフェーズ中のエラーが発生しました。	ABORTED COMMAND	SCSI エラーです。 ターミネーターと SCSI ケーブルをチェックしてください。
4B	00	DATA PHASE ERROR データフェーズ中のエラーが発生しました。	ABORTED COMMAND	SCSI エラーです。 ターミネーターと SCSI ケーブルをチェックしてください。
53	00	MEDIA LOAD OR UNLOAD ERROR ドライブへのカートリッジ装着、または排出の失敗が発生しました。	HARDWARE ERROR	サービス・サポート窓口にご連絡ください。
5A	01	OPERATOR MEDIUM REMOVAL REQUESTED 入出力エレメントからカートリッジが取り除かれていません。	ABORTED COMMAND	カートリッジが挿入 / 排出スロットから、取り除かれていません。 カートリッジを挿入 / 排出スロットから抜き取ってください。
5A	80	OPERATOR MEDIUM INSERT REQUESTED 入出力エレメントにカートリッジが未挿入です。	ABORTED COMMAND	挿入 / 排出スロットにカートリッジが挿入されていません。 挿入 / 排出スロットからカートリッジを挿入するため、コマンドを再度発行してください。
5A	81	OPERATOR MEDIUM RE-INSERT REQUESTED 入出力エレメントにカートリッジが逆向きで挿入されました。	ABORTED COMMAND	カートリッジが逆向きで挿入されている。または、正常位置まで押し込まれていない可能性があります。 再度挿入 / 排出スロットからの挿入コマンドを発行し、挿入 / 排出スロットに正しくカートリッジを挿入してください。

ERROR CODE		DESCRIPTION	SENSE KEY	復旧作業
ASC	ASCQ			
5B	01	THRESHOLD CONDITION MET ライフパラメータ、ログパラメータの設定値 / 累積値比較状況が指定状況となりました。	UNIT ATTENTION	
5B	02	LOG COUNTER AT MAXIMUM ログパラメータ累積値が最大となりました。	UNIT ATTENTION	
80	00	MEDIUM REMOVAL PREVENTED カートリッジの取り出しが禁止されています。	ILLEGAL REQUEST	カートリッジの取り出しが禁止になっています。 PREVENT/ ALLOW MEDIUM REMOVAL コマンドでカートリッジの取り出しを許可してください。
80	18	MAGAZINE#1 IS OPEN 左側のマガジンがありません。	HARDWARE ERROR	左側のマガジンが存在しません。 マガジンを装着してください。
80	19	MAGAZINE#2 IS OPEN 右側のマガジンがありません。	HARDWARE ERROR	右側のマガジンが存在しません。 マガジンを装着してください。
80	71	ACCESS DOOR IS OPEN フロントパネルがロックされていません。	NOT READY	フロントドアが開いているため、スタンバイ状態になりません。 フロントドアを閉めてください。
80	7B	MAIL SLOT IS OPEN メールスロット（挿入 / 排出スロット）のシャッターが開いています。	NOT READY	
81	00	MEDIUM PRESENT IN DRIVE カートリッジがイジェクトされていないため、ドライブ からの取出しが無効です。	ABORTED COMMAND	
84	00	COMMAND SEQUENCE ERROR コマンドシーケンスに関するエラーが発生しました。	ABORTED COMMAND	
90	14	I/E ELEMENT FORWARDING ERROR 入出力エレメント前進移動エラーが発生しました。	HARDWARE ERROR	サービス・サポート窓口にご連絡ください。
90	15	I/E ELEMENT BACKWARDING ERROR 入出力エレメント後退移動エラーが発生しました。	HARDWARE ERROR	サービス・サポート窓口にご連絡ください。
91	20	PICK MEDIUM ERROR 格納スロットから搬送エレメントへのカートリッジ引き込み動作中にエラーが発生しました。	HARDWARE ERROR	サービス・サポート窓口にご連絡ください。
91	23	STORE MEDIUM ERROR 搬送エレメントから格納スロットへのカートリッジ排出動作中にエラーが発生しました。	HARDWARE ERROR	サービス・サポート窓口にご連絡ください。
91	30	MEDIUM UNLOADING ERROR AT DRIVE ドライブ から搬送エレメントへのカートリッジ引き込み動作中にエラーが発生しました。	HARDWARE ERROR	サービス・サポート窓口にご連絡ください。
91	32	MEDIUM LOADING ERROR AT DRIVE 搬送エレメントからドライブへのカートリッジ挿入動作中にエラーが発生しました。	HARDWARE ERROR	サービス・サポート窓口にご連絡ください。
92	50	SWING ERROR 搬送エレメントのスイング動作中にエラーが発生しました。	HARDWARE ERROR	サービス・サポート窓口にご連絡ください。
93	E9	LOGICAL UNIT MEMORY ERROR 内部メモリーの異常です。	HARDWARE ERROR	サービス・サポート窓口にご連絡ください。
94	EE	MEDIA JUMPING カートリッジの飛び出しが発生しました。	HARDWARE ERROR	MAGAZINE XCHG を実行して、マガジンを本機より取り出し、マガジンからカートリッジが飛び出していないか確認してください。
EF	F7	CARTRIDGE IS IN CARRIER 搬送エレメント内にカートリッジが存在します。 (リカバリー不能です。)	ABORTED COMMAND	ピッカー部内にカートリッジが存在します。 REZERO UNIT を実行し、復旧を試みてください。

ERROR CODE		DESCRIPTION	SENSE KEY	復旧作業
ASC	ASCQ			
EF	FC	CARTRIDGE POSITION ERROR DURING RECOVERY OPERATION カートリッジを戻すポジションが存在しません。 (フル装填の状態です。)	UNIT ATTENTION	カートリッジを戻す位置が存在しません。 またはカートリッジがないのにサイクルテストを行いました。 本機内に許容巻数以上のカートリッジが存在していないか、または内部メモリ上でスロットがすべて ＦＵＬＬ になっていないか確認してください。
FF	FF	UNKNOWN ERROR その他の未定義エラーが発生しました。	HARDWARE ERROR	サービス・サポート窓口にご連絡ください。

主な仕様

性能

搭載可能ドライブ数　2 台

搭載可能カートリッジ数
最大 20 巻

記憶容量　最大 10 T バイト（非圧縮、600m SAIT-1 カートリッジ 20 巻使用時）
最大 26 T バイト（2.6:1 圧縮 *1、600m SAIT-1 カートリッジ 20 巻使用時）

データ転送レート　CSM-20S/S1 モデルの場合
216G バイト / 時（非圧縮時 *2、ドライブ 2 台搭載時）

*1　圧縮率は、データタイプにより変化します。
*2　転送レートは、お使いのホストコンピューターの性能により異なります。

メディア搬送時間	12.5 秒（ドライブからスロットまで）
LCD パネル	16 桁 x 2 行
LED	2 個（POWER LED および ERROR/WARNING LED）
外部コネクタ	
SCSI	Ultra 160 SCSI LVD（68 ピンハーフピッチ）(2)
Ethernet	10 Base-T/100 Base-TX（RJ-45）(1)
RS232C	D-sub 9 ピン（1、保守専用）

使用環境

使用時　温度：10 ～ 35 ℃
湿度：20 ～ 80%（結露のないこと）

非動作時　温度：-30 ～ 60 ℃
湿度：10 ～ 90%（結露のないこと）

電源・その他

電源	AC100-240V ± 10%（50/60Hz） 1.2A（100V） 0.6A（240V）
消費電力	100W（ドライブ２台搭載時）
動作音	55dB（A）
外形寸法	430（W）× 220（H）× 745（D）mm (突起部を含まず)
質量	27kg（ドライブ１台搭載時)、 31kg（ドライブ２台搭載時）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なしで変更することがありますが、ご了承ください。

オプショナルアクセサリ（別売）

ラックマウントキット
型番 ACY-RKSL

増設用 SAIT-1 ドライブキット
型番 ACY-DR20/S1

マガジンキット　型番 ACY-MZ20

バーコードラベルについては、お買い上げ店にお問い合わせください。

索引

あ

アプリケーションソフトウェア 10

お

オプショナルアクセサリ 87

か

カートリッジ
- 各部の名称 72
- 準備 32
- 使用できるカートリッジ 10
- テープの書き込み保護 74
- 取り扱い 75
- 保管 76

開梱する 16
各部の名称 12
- 前面 12
- 背面 14

く

クリーニングカートリッジ 75

し

仕様 86
使用環境 86
シリアル No. 15

せ

設置 19

て

データカートリッジ 71
電源を入れる 28
電源を切る 29

と

同梱品 18
トラブルシューティング 77

ほ

ホストコンピューター 18
- 準備 18
- 接続 21

も

モデル名 15

ら

ラベル 15

お問い合わせは
お買い上げの販売店までお願いいたします。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35
Sony Corporation